

2023(令和5)年度 大学戦略 I R 室活動報告

国立大学法人滋賀大学 大学戦略 I R 室



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学

1. 2023（令和5）年度活動の概要

2023（令和5）年度は、以下の課題を中心に活動を進めた。

分析課題		概要・目的	関連部局
I.	入試種別ごとの学業成績及び就職志望度の相関についての分析	入試種別が増えたことにより学生の多様化が進んでいる中で、入試種別ごとの学業成績（GPA）や就職志望度を評価することにより、今後の入試設計の参考とする。	教育学部
II.	数学、国語（古文・漢文含む）の前期試験と共通テストの相関について	大学入学共通テストと一般選抜試験の受験科目の成績相関に関する検証を行う。一般選抜、特に前期日程試験の数学、国語の有効性について、大学入学共通テストの成績と比較分析することにより検証し、今後の一般選抜の在り方を検討する際の資料として活用する。	教育学部
III.	入試種別ごとの学業成績及び進路状況等との相関についての分析	入試種別ごとの学業成績（GPA）を調査するとともに、1年次と卒業時の成績相関や進路状況との関係等を分析することにより、今後の入試設計及び学業指導の参考とする。	経済学部 DS学部
V.	図書館の滞在時間が学業成績に与える効果についての分析	図書館の滞在時間と学業成績（GPA）に相関関係がみられるかを分析するとともに、分析結果については、図書館の学生サービス向上や設備拡充に活用する。	情報機構
VI.	令和5年度新入生意識等調査の分析	本学のブランド力分析の一環として、令和5年度新入生意識等調査の分析を行い、新入学生の本学選択の要因等を把握する。	政策企画室

2. 分析結果と政策へのインプリケーション

I.入試種別ごとの学業成績及び就職志望度の相関についての分析（教育学部関連）【付録①】

- 教育学部学生の入試種別と、学業成績および教員志望度分析から以下の点が指摘できる。
- 1年次成績と3年次あるいは卒業時のGPAの比較からは、いずれの入学年度、入試種別においてもGPAの上昇がみることができ、学習指導また学生の大学における学習方法への習熟が観察できる。このGPAの上昇という事象は、経済学部生においては、明確には観察できない点であり、教育学部生における一つの特徴となっている。
- 比較可能な入試類型において、1年次と3年次の教員志望度を比較した場合、教員志望度が高まっている入試類型は無かった。GPAが学年進行に伴い上昇しているのに対し、教員志望度が低下している状況である。
- 教員志望度とGPAの関係からは、3年次の教員志望度を比較した場合、2020年度入学生のGPA2.0未満の集団を除き、GPAの高い集団において、教員志望度が高くなる傾向が現れている。大学での学習への適応と教員志望にプラスの関係がある可能性がある。
- 学年進行後のGPAと入試類型との間には、地域推薦が特出している。他方、学年進行後の教員志望度との間では、地域推薦が高い学年が多くなっているが、他の類型間の序列は明確に指摘できない。
- GPA、教員志望度という教育成果の観点から、教育学部のディプロマポリシーに適合した学生を選抜することへの、各種入試の寄与については、地域推薦が両指標について良好なパフォーマンスを示している可能性があるが、他の入試種別については指摘できる点はない。地域推薦入試は、地域で貢献する教員を志望する者を対象とした明確なアドミッションポリシーを掲げており、このことが、そのパフォーマンスに貢献している可能性はある。
- 地域推薦は1年次と学年進行後の比較が可能な対象年次では、上記のように良好な結果を示している。2021年度入学生では、1年次の教員志望度が最も低くなっているが、GPAでは1年次、2年次ともに最も高く3年次の教員志望度を注視する必要がある。この点も踏まえ、多様な入試を展開することが、学生の多様性の確保という観点において、教育学部のディプロマポリシーの達成に有効な施策であるかどうかは、引き続き検討する必要がある。

II.数学、国語（特に古文・漢文）の前期試験と共通テストの相関についての分析（教育学部関連）【付録②】

- 2022年度入試合格者（数学選択）の共通テスト数1は共通テスト数2及び前期日程試験の数学とやや相関がみられた。通算GPAと共通テスト数2にやや負の相関がみられるが、その他に相関は見られなかった。
- 2023年度入試合格者（数学選択）では共通テスト数1、共通テスト数2及び前期日程試験の数学と互いにやや相関がみられた。その他に相関は見られなかった。
- 2022年度入試合格者（国語選択）では共通テスト国語合計と共通テスト古文及び共通テスト漢文でかなり相関がみられ、前期日程試験国語合計と前期日程試験古文及び漢文でかなり相関がみられた。共通テスト国語と前期日程試験国語での相関はみられなかった。通算GPAと共通テスト漢文、前期日程試験漢文にそれぞれやや相関がみられたがそれ以外では相関はみられなかった。

II. 数学、国語（特に古文・漢文）の前期試験と共通テストの相関についての分析（教育学部関連）【付録②】 つづき

○ 2023年度入試合格者（国語選択）では共通テスト国語合計と共通テスト古文でかなり相関が、共通テスト漢文でやや相関がみられ、前期日程試験国語合計と前期日程試験古文でもかなり相関が、前期日程試験漢文でやや相関がみられた。前期日程試験古文と漢文でもやや相関がみられた。共通テスト国語と前期日程試験国語では、漢文同士でのみやや相関がみられた。通算GPAと前期日程試験国語合計、及び前期日程試験漢文にそれぞれやや相関がみられた。

III. 入試種別ごとの学業成績及び進路状況等との相関についての分析（経済学部関連）【付録③】

○ 経済学部生については、入試種別にみると、卒業生（2016～2019年度入学生）までは、学年進行後の成績が上昇しており、経済学部での学習成果が発現していることが示唆される。しかし、2020年度入学生以降はでは、どの入試種別においてもGPAが低下しており、このことの要因・影響については、他の入学年次の学年進行後の成績ともあわせて、今後検討していくことが必要である。

○ 一般後期入学者の留年率が高く示されているが、大企業等就職率も一般後期入学者が最も高いため、留学などの自己研鑽期間を持つための留年を選択している者の存在が留年率を押し上げている可能性がある。

○ GPAと教育の一つの成果として考えることができる大企業等就職率はGPA2.0未満とGPA2.0以上との間に大きな差がみられる。また、GPA3.0以上の大企業等就職率がGPA2.5～3.0より低く起業やベンチャー等の選択肢を選んでいる可能性がある。

IV. 入試種別ごとの学業成績及び進路状況等との相関についての分析（DS学部関連）【付録④】

○ データサイエンス学部生については、入試種別にみると、卒業生（2017～2019年度入学生）までは、学年進行後の成績が上昇しており、データサイエンス学部での学習成果が発現していることが示唆される。しかし、2020年度入学生以降はでは、どの入試種別においてもGPAが低下しており、このことの要因・影響については、他の入学年次の学年進行後の成績ともあわせて、今後検討していくことが必要である。

○ 1年次と学年進行時のGPAの比較では、AO入学生における変化幅について、2017～2019年度入学生においては上昇せず、2020年度、2021年度入学生においては下降幅が最も大きくなっている。このことは、相対的にAO入試入学生において、入学後の学習への適合に課題がある学生が生じている可能性を示唆するのではないかと。

○ 文系学生と理系学生では、理系学生のGPAが、一年次及び学年進行後も(2021年入学生1年次を除き)高くなっている。また、入学生における理系学生比率が高くなっており、今後アドミッションポリシーを見直しする際には文系・理系比率も検討材料としていく必要があると考えられる。

○ GPAと教育の一つの成果として考えることができる大企業就職率との間にプラスの関係がみられること、また卒業生に占める大企業等就職者＋大学院進学者の割合が、GPA最上位グループで最も高くなっていることは、データサイエンス学部の教育実績が、そのディプロマポリシーを達成していることの一つの証左となりうる。

V.図書館の滞在時間が学業成績に与える効果についての分析【付録⑤】

○ 現2回生から4回生にかかるGPAランクごとの図書館滞在時間数について調査したところ、グラフからはGPAランクが高い学生ほど図書館滞在時間数が多い傾向があることが分かった。

なお、GPAと図書館滞在時間数の相関係数は、全学0.185、教育学部0.192、経済学部0.196、DS学部0.152で正となっているが、いずれも正の相関がある(0.2以上)となっていない。また、GPA3.5以上の学生について教育学部と経済学部では、図書館利用が多く、DS学部では低くなっており、図書館以外の学修施設(ラーニングcommons等)での学修が進んでいる可能性を示している。

○ これらのことを、もともと成績が良い学生が図書館を利用し、本を多く読んでいる、または、自主学習をしているととらえるか、図書館を利用する学生ほど、成績が良くなるととらえるかについては、更なるデータ収集・分析が必要となる。

○ いずれにせよ成績が良い学生は図書館を積極的に利用している傾向がある。これは、図書館が資料だけでなく個人学習やグループ学習、ゼミ活動、アクティブラーニングなど、様々な学習ニーズに応える「場」を提供していることによると考えられる。コロナ禍を経ても学生から開館日の増加や開館時間の延長の要望が続くのも、自主学習の「場」としての図書館の重要性を示している。

○ 同時に、「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について(審議のまとめ)」では、教育・研究のDXが進展する中、今後の大学図書館は物理的な「場」に制約されず、物理的な空間と仮想的な空間が融合する場、あるいは仮想的な空間に対する高度なインタフェースといった付加価値を持つ場として発展し、大学図書館機能の実現を図ることが求められている。

そのため、図書館は今後も物理・デジタルの両面から多様な学習スタイルに対応し、学生が主体的に学びを深めることができるよう環境を整備することが重要である。

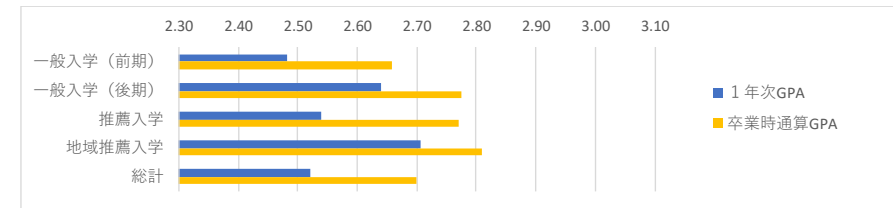
入試種別ごとの学業成績及び就職志望度の相関についての分析（教育学部関連）

（1）入試種別と学業成績（GPA）の関係

※2016～2019年度入学生は、2022年度末までに卒業した学生を対象とし、2020年度以降は2022年度末まで在籍した学生を対象。
※いずれの年度も帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、人数が少ないため集計からは除外。
※GPAは平均値（本頁以降の分析も同じ）

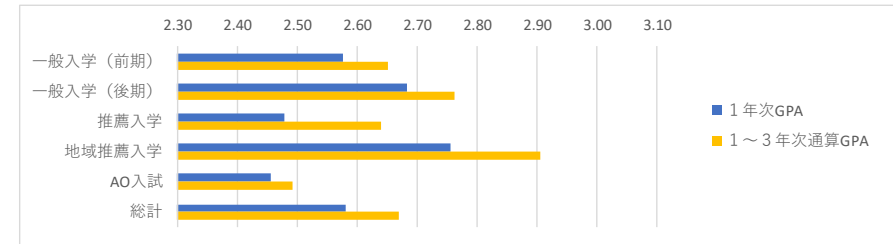
2016～2019
年度入学生

入試種別	人数	1 年次 GPA	卒業時通算 GPA
一般入学（前期）	572	2.48	2.66
一般入学（後期）	88	2.64	2.78
推薦入学	241	2.54	2.77
地域推薦入学	36	2.71	2.81
総計	937	2.52	2.70



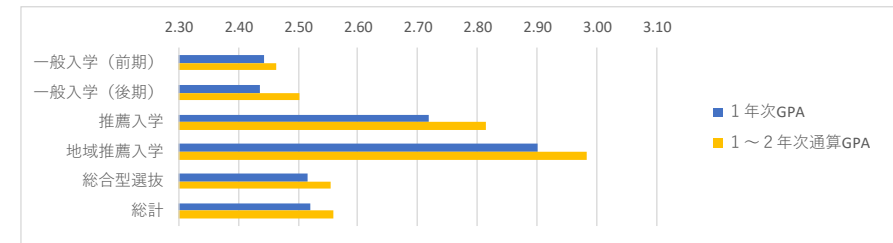
2020
年度入学生

入試種別	人数	1 年次 GPA	1～3 年次通算 GPA
一般入学（前期）	139	2.58	2.65
一般入学（後期）	17	2.68	2.76
推薦入学	30	2.48	2.64
地域推薦入学	21	2.75	2.90
AO入試	21	2.46	2.49
総計	228	2.58	2.67



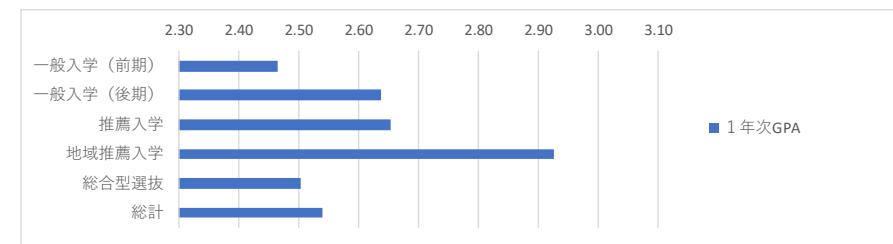
2021
年度入学生

入試種別	人数	1 年次 GPA	1～2 年次通算 GPA
一般入学（前期）	136	2.44	2.46
一般入学（後期）	28	2.44	2.50
推薦入学	43	2.72	2.81
地域推薦入学	9	2.90	2.98
総合型選抜	21	2.52	2.55
総計	237	2.52	2.56



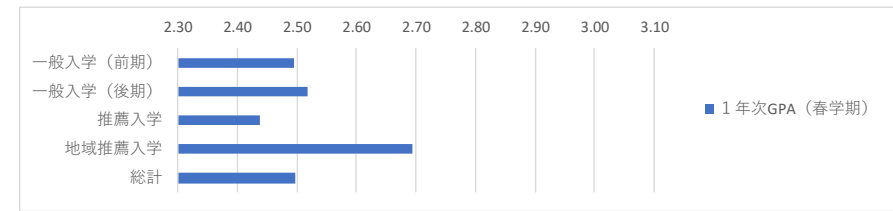
2022
年度入学生

入試種別	人数	1 年次 GPA
一般入学（前期）	138	2.47
一般入学（後期）	24	2.64
推薦入学	41	2.65
地域推薦入学	10	2.93
総合型選抜	21	2.50
総計	234	2.54



（参考）
2023
年度入学生
※春学期のみ

入試種別	人数	1 年次 GPA（春学期）
一般入学（前期）	143	2.49
一般入学（後期）	47	2.52
推薦入学	40	2.44
地域推薦入学	10	2.70
総計	240	2.50



(2) 入試種別と教員志望度の関係

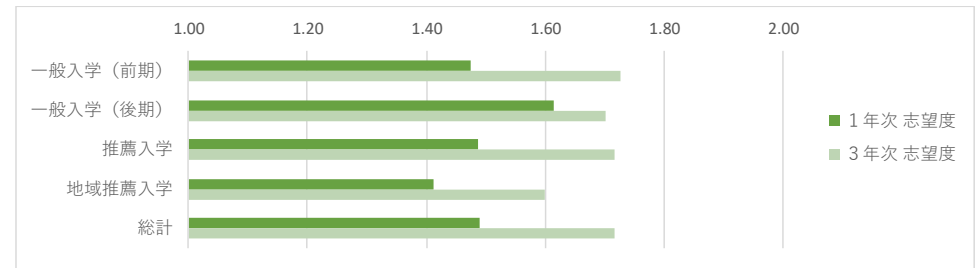
※人数は教員志望度調査の回答者数。

※志望度は平均。数字は低いほど、教員志望度が高い（回答選択肢：1…教員志望、2…迷いあり、3…教員以外）。

※いずれの年度も帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、人数が少ないため集計からは除外。

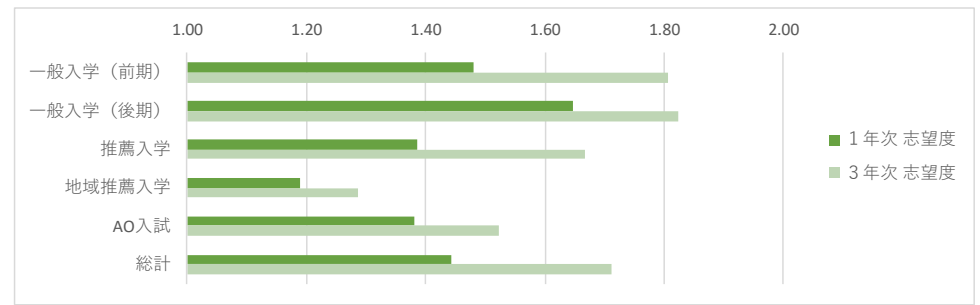
2016～2019
年度入学生

入試種別	1 年次		3 年次	
	人数	志望度	人数	志望度
一般入学（前期）	552	1.47	545	1.73
一般入学（後期）	88	1.61	84	1.70
推薦入学	236	1.49	225	1.72
地域推薦入学	34	1.41	35	1.60
総計	910	1.49	889	1.72



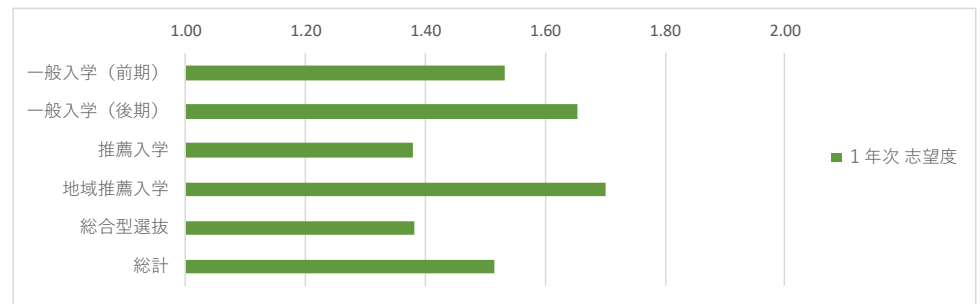
2020
年度入学生

入試種別	1 年次		3 年次	
	人数	志望度	人数	志望度
一般入学（前期）	135	1.48	134	1.81
一般入学（後期）	17	1.65	17	1.82
推薦入学	31	1.39	30	1.67
地域推薦入学	21	1.19	21	1.29
AO入試	21	1.38	21	1.52
総計	225	1.44	223	1.71



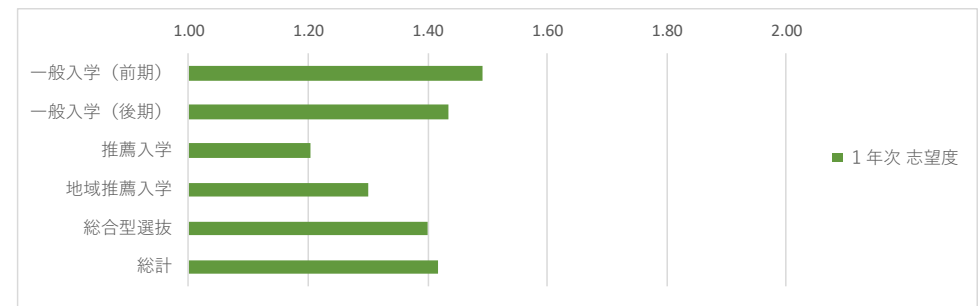
2021
年度入学生

入試種別	1 年次	
	人数	志望度
一般入学（前期）	133	1.53
一般入学（後期）	29	1.66
推薦入学	42	1.38
地域推薦入学	10	1.70
総合型選抜	21	1.38
総計	235	1.51



2022
年度入学生

入試種別	1 年次	
	人数	志望度
一般入学（前期）	126	1.49
一般入学（後期）	23	1.43
推薦入学	39	1.21
地域推薦入学	10	1.30
総合型選抜	20	1.40
総計	218	1.42



(3) 学業成績と教員志望度の関係

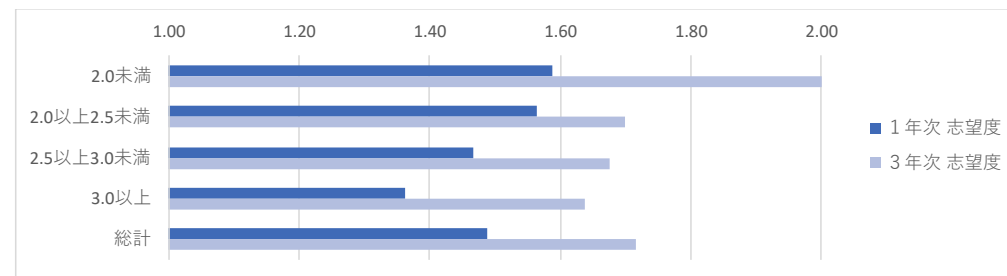
※人数は教員志望度調査の回答者数。

※志望度は平均。数字は低いほど、教員志望度が高い（回答選択肢：1…教員志望、2…迷いあり、3…教員以外）。

※いずれの年度も帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、人数が少ないため集計からは除外。

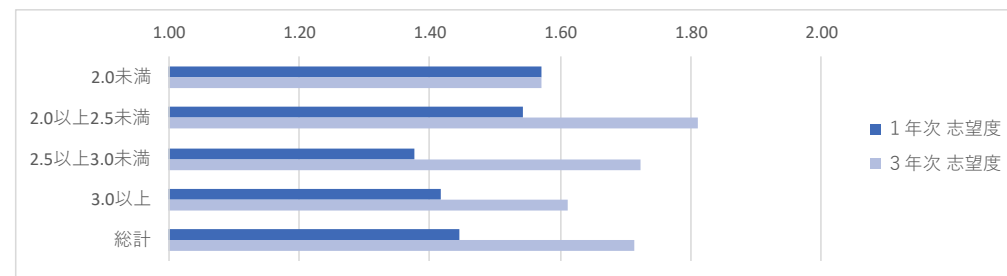
2016～2019
年度入学生

通算GPA	1 年次		3 年次	
	人数	志望度	人数	志望度
2.0未満	121	1.59	112	2.00
2.0以上2.5未満	243	1.56	253	1.70
2.5以上3.0未満	375	1.47	364	1.68
3.0以上	171	1.36	160	1.64
総計	910	1.49	889	1.72



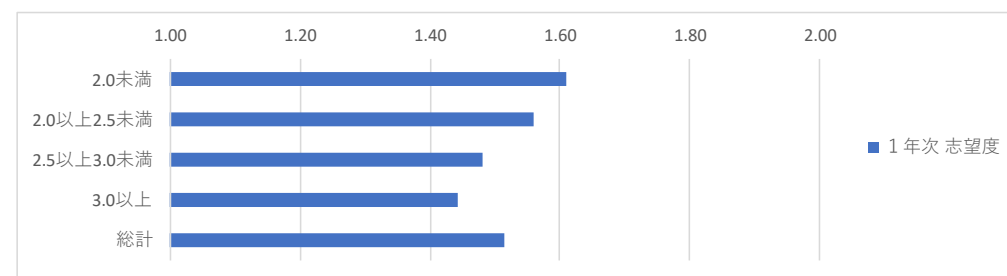
2020
年度入学生

通算GPA	1 年次		3 年次	
	人数	志望度	人数	志望度
2.0未満	21	1.57	21	1.57
2.0以上2.5未満	59	1.54	58	1.81
2.5以上3.0未満	109	1.38	108	1.72
3.0以上	36	1.42	36	1.61
総計	225	1.44	223	1.71



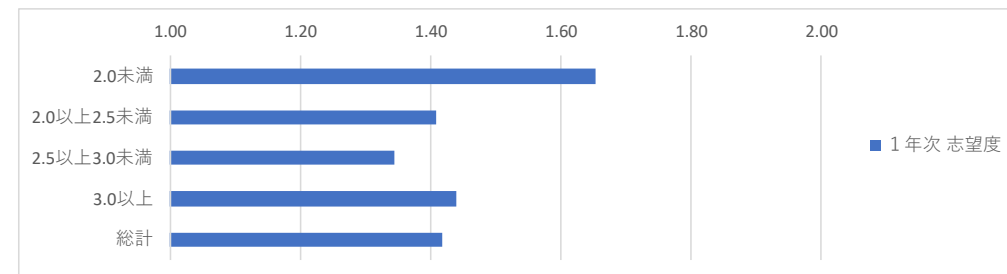
2021
年度入学生

通算GPA	1 年次	
	人数	志望度
2.0未満	41	1.61
2.0以上2.5未満	59	1.56
2.5以上3.0未満	83	1.48
3.0以上	52	1.44
総計	235	1.51



2022
年度入学生

通算GPA	1 年次	
	人数	志望度
2.0未満	26	1.65
2.0以上2.5未満	49	1.41
2.5以上3.0未満	93	1.34
3.0以上	50	1.44
総計	218	1.42



数学、国語（特に古文・漢文）の前期試験と共通テストの相関についての分析（教育学部関連）

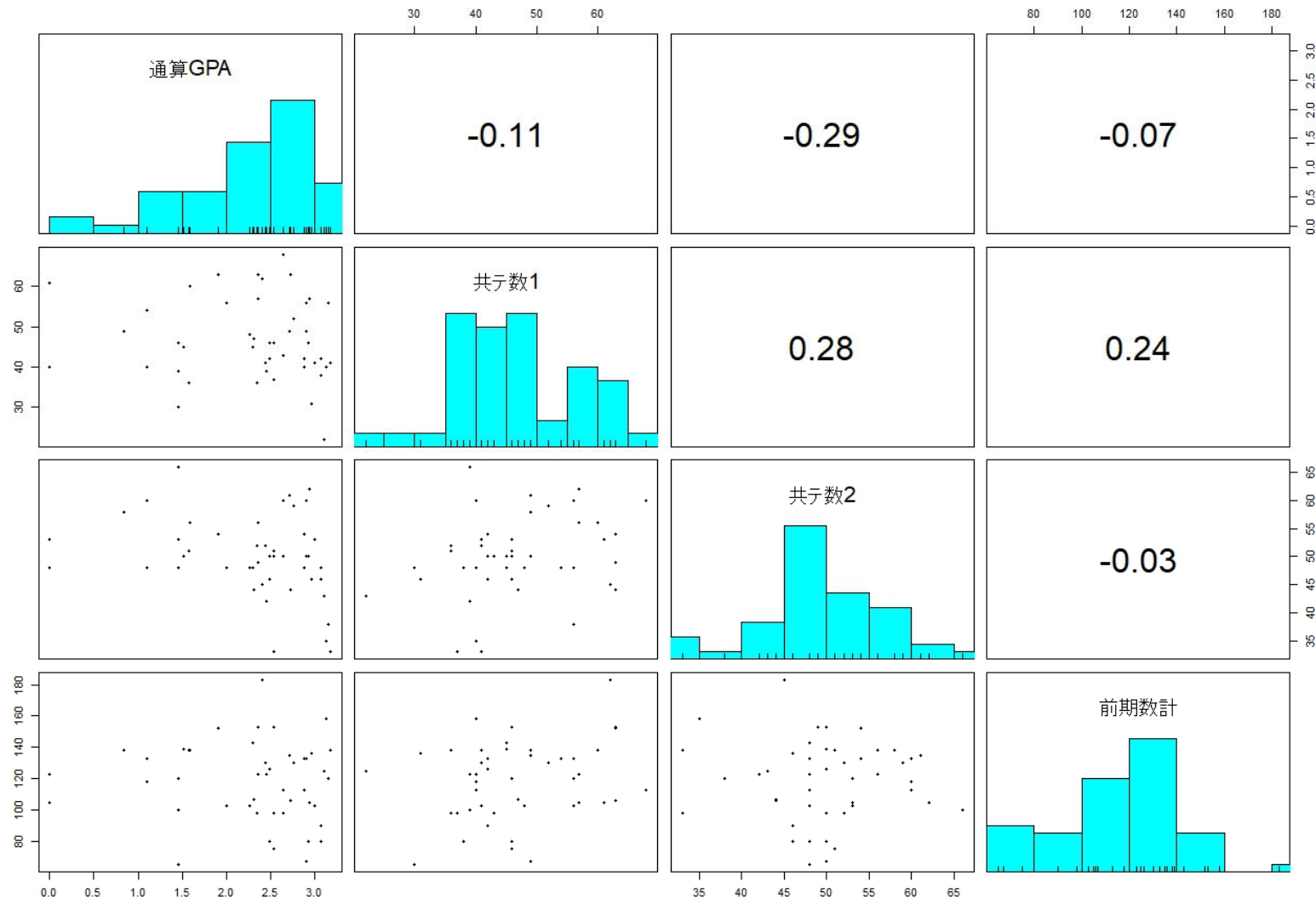
(1) 2022年度入試合格者(数学選択)の相関関係

※2022年度入試データより作成

※いずれの年度も前期日程試験合格者で本学へ入学した者を集計（本頁以降の分析も同じ）

※GPAは2022年度末平均値

※相関行列library(psych) pairs.panelsによる作図（散布図，相関係数，ヒストグラム）



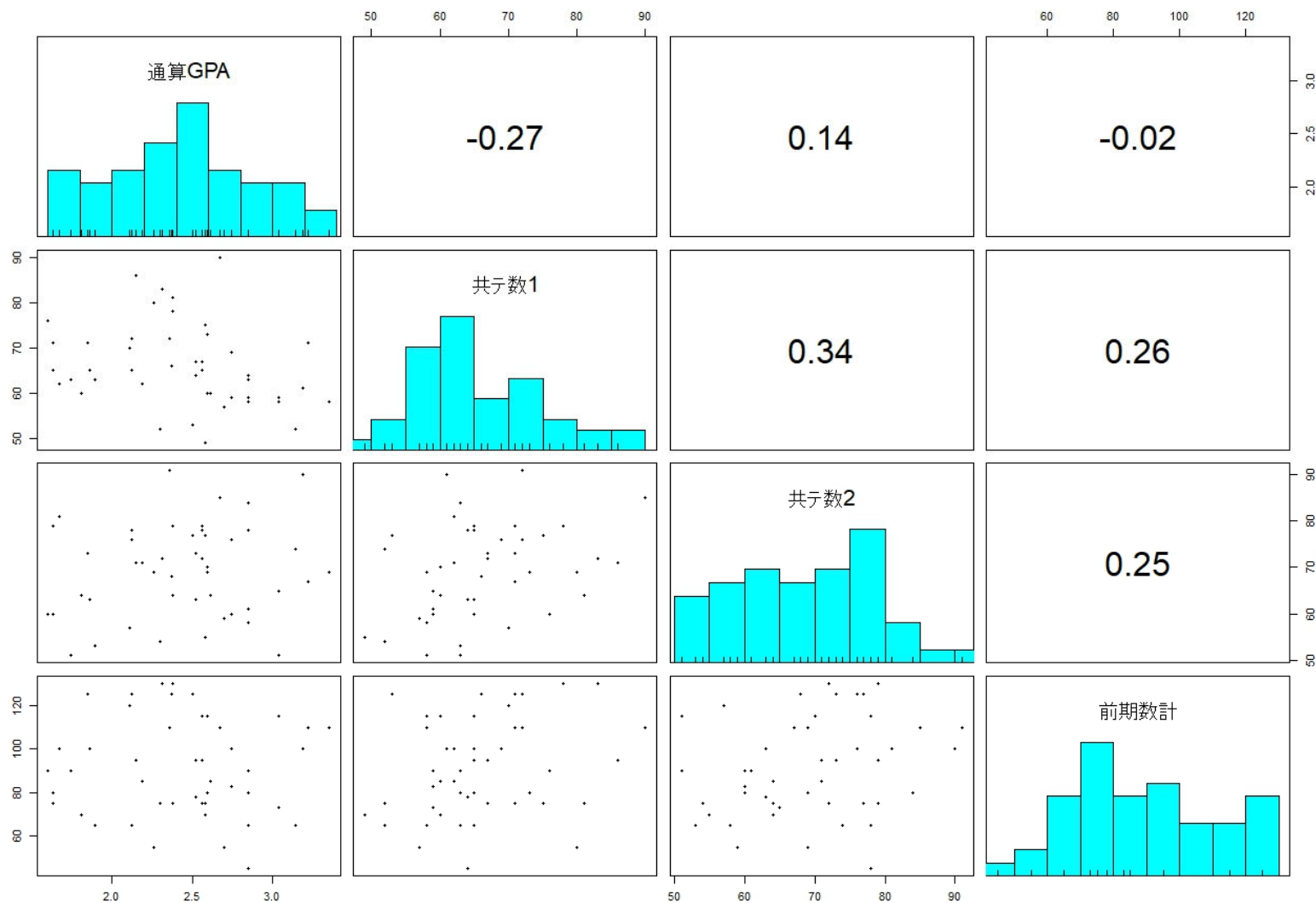
(2) 2023年度入試合格者(数学選択)の相関関係

※2023年度入試データより作成

※いずれの年度も前期日程試験合格者で本学へ入学した者を集計（本頁以降の分析も同じ）

※GPAは2023年度春学期データ

※相関行列library(psych) pairs.panelsによる作図（散布図，相関係数，ヒストグラム）



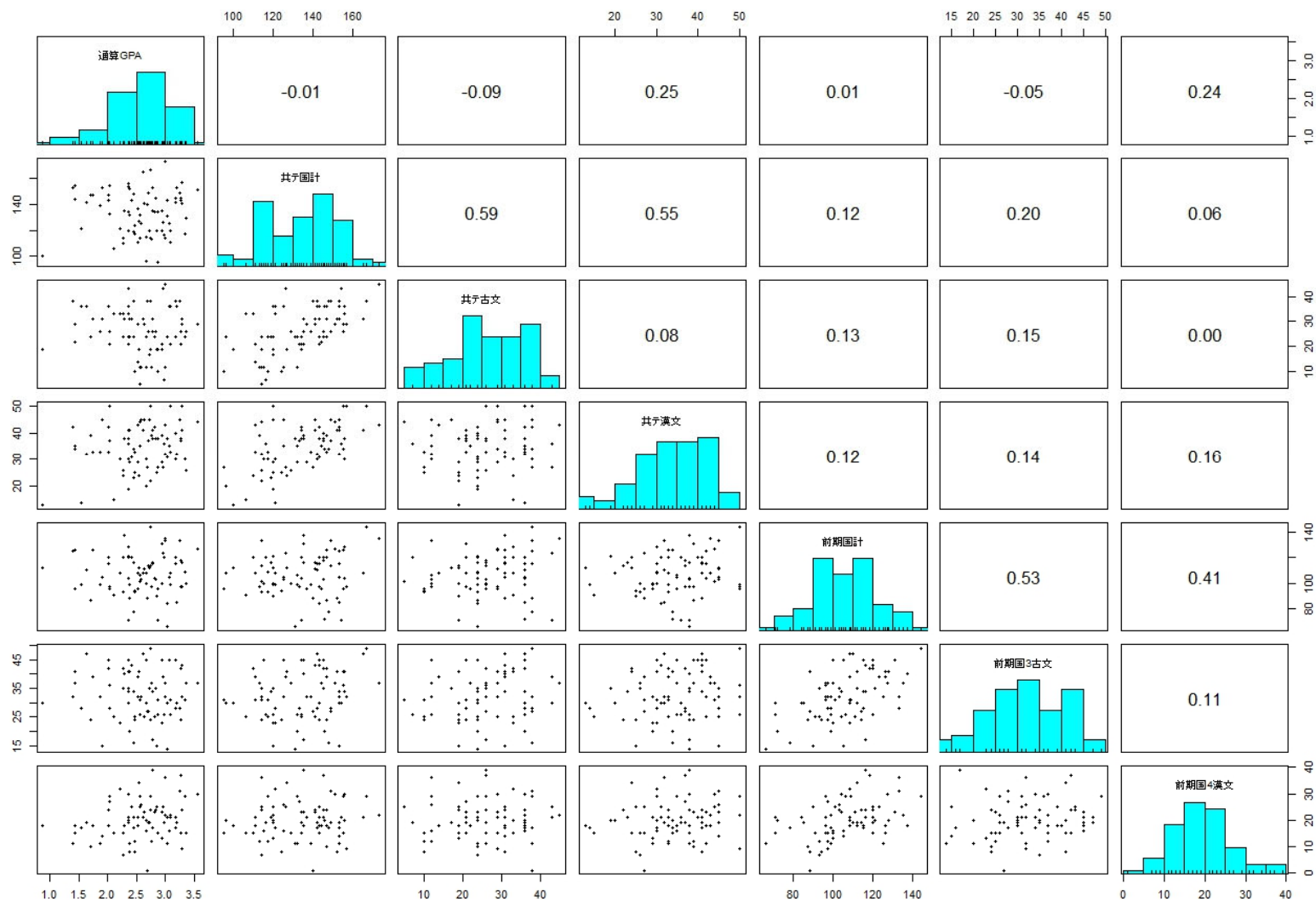
(3) 2022年度入試合格者(国語選択)の相関関係

※2022年度入試データより作成

※いずれの年度も前期日程試験合格者で本学へ入学した者を集計（本頁以降の分析も同じ）

※GPAは2022年度末平均値

※相関行列library(psych) pairs.panelsによる作図（散布図，相関係数，ヒストグラム）



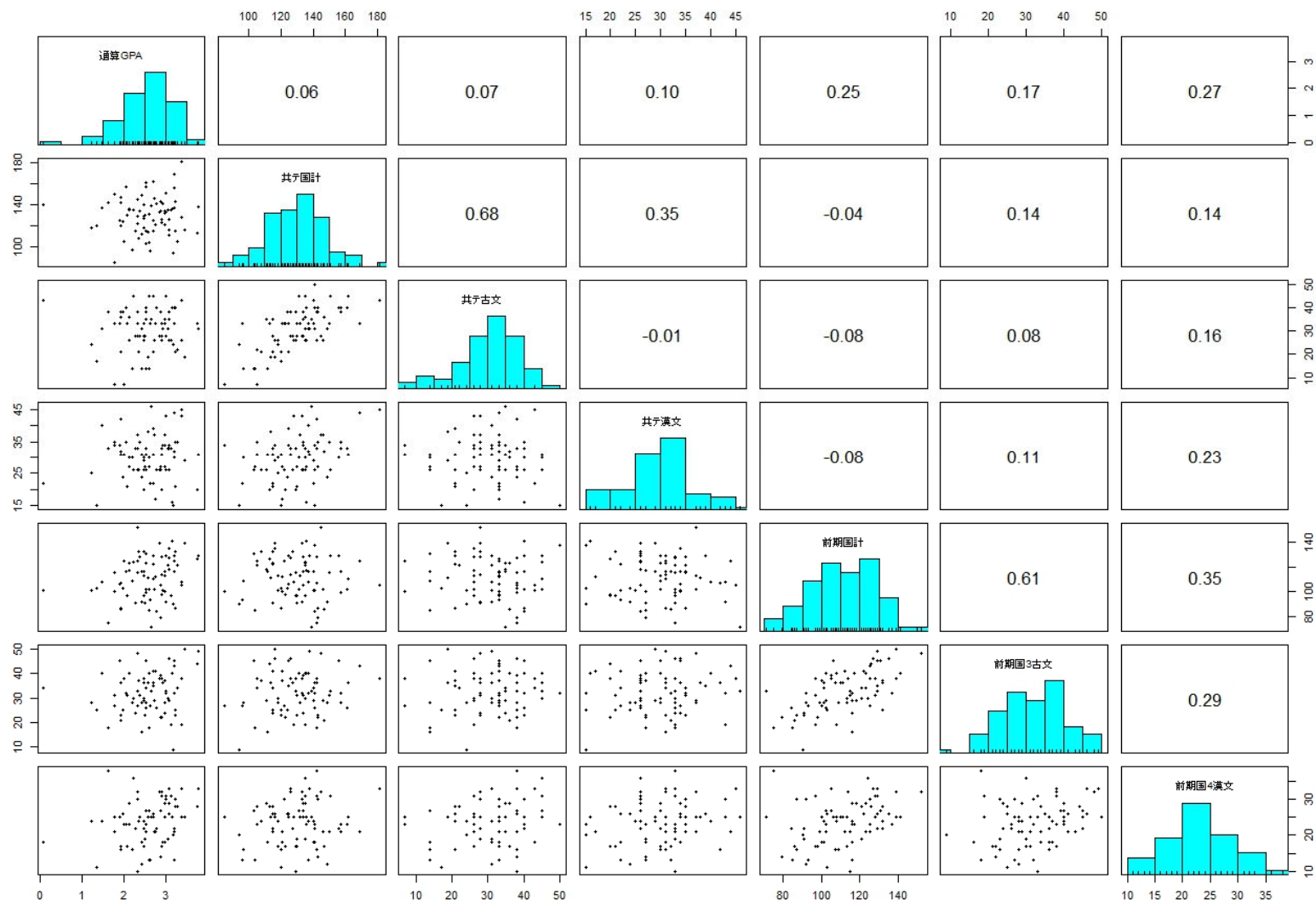
(4) 2023年度入試合格者(国語選択)の相関関係

※2023年度入試データより作成

※いずれの年度も前期日程試験合格者で本学へ入学した者を集計(本頁以降の分析も同じ)

※GPAは2023年度春学期データ

※相関行列library(psych) pairs.panelsによる作図(散布図, 相関係数, ヒストグラム)



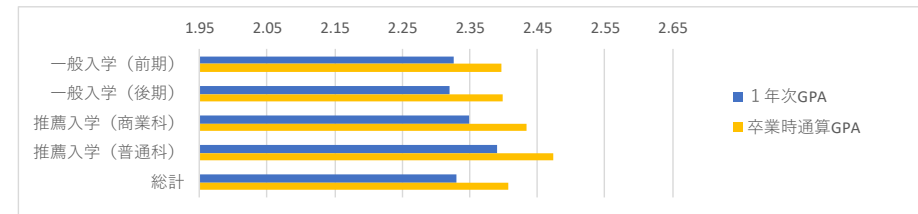
入試種別ごとの学業成績及び進路状況との相関についての分析 (経済学部関連)

(1) 入試種別と学業成績(GPA)の関係

※2016～2019年度入学生は、2022年度末までに卒業した学生を対象とし、2020年度以降は2022年度末まで在籍した学生を対象。
※夜間主、編入学、帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、集計からは除外。

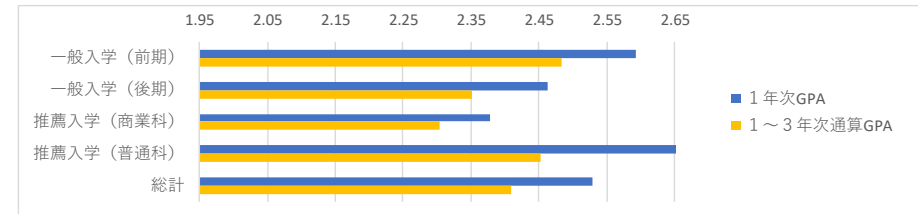
2016～2019
年度入学生

入試種別	人数	1 年次GPA	卒業時通算GPA
一般入学 (前期)	609	2.33	2.40
一般入学 (後期)	775	2.32	2.40
推薦入学 (商業科)	77	2.35	2.43
推薦入学 (普通科)	158	2.39	2.47
総計	1619	2.33	2.41



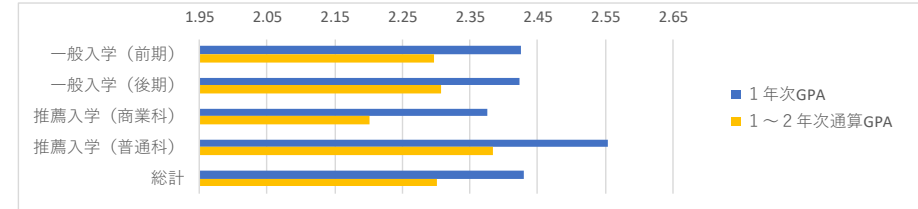
2020
年度入学生

入試種別	人数	1 年次GPA	1～3 年次通算GPA
一般入学 (前期)	150	2.59	2.48
一般入学 (後期)	188	2.46	2.35
推薦入学 (商業科)	20	2.38	2.30
推薦入学 (普通科)	40	2.69	2.45
総計	398	2.53	2.41



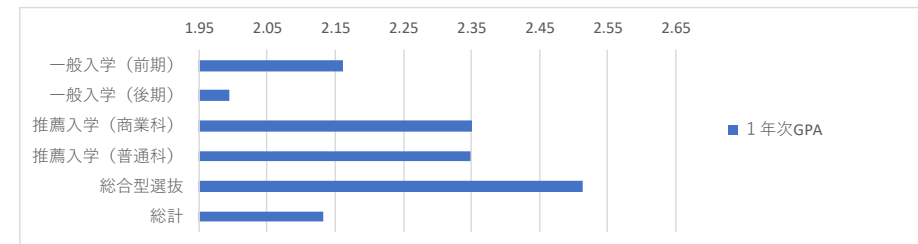
2021
年度入学生

入試種別	人数	1 年次GPA	1～2 年次通算GPA
一般入学 (前期)	191	2.42	2.30
一般入学 (後期)	132	2.42	2.31
推薦入学 (商業科)	25	2.38	2.20
推薦入学 (普通科)	47	2.55	2.38
総計	395	2.43	2.30



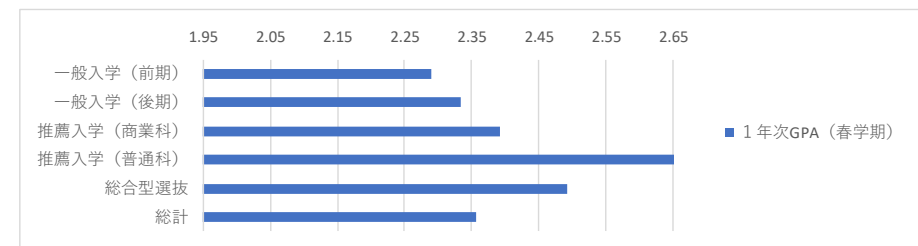
2022
年度入学生

入試種別	人数	1 年次GPA
一般入学 (前期)	174	2.16
一般入学 (後期)	163	1.99
推薦入学 (商業科)	21	2.35
推薦入学 (普通科)	40	2.35
総合型選抜	12	2.51
総計	410	2.13



(参考)
2023
年度入学生
※春学期のみ

入試種別	人数	1 年次GPA (春学期)
一般入学 (前期)	165	2.29
一般入学 (後期)	190	2.33
推薦入学 (商業科)	19	2.39
推薦入学 (普通科)	40	2.68
総合型選抜	13	2.49
総計	427	2.36

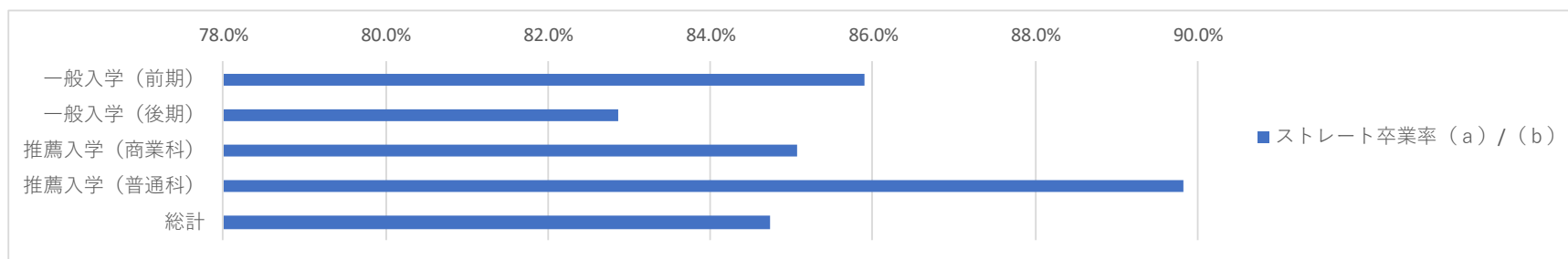


(2) 入試種別ごとのストレート卒業率

※2022年度末までに在学期間4年で卒業した者の割合

※夜間主、編入学、帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、集計からは除外。

入試種別	ストレート卒業者 (a)	入学者 (b)	ストレート卒業率 (a) / (b)
一般入学 (前期)	572	666	85.9%
一般入学 (後期)	720	869	82.9%
推薦入学 (商業科)	74	87	85.1%
推薦入学 (普通科)	150	167	89.8%
総計	1516	1789	84.7%

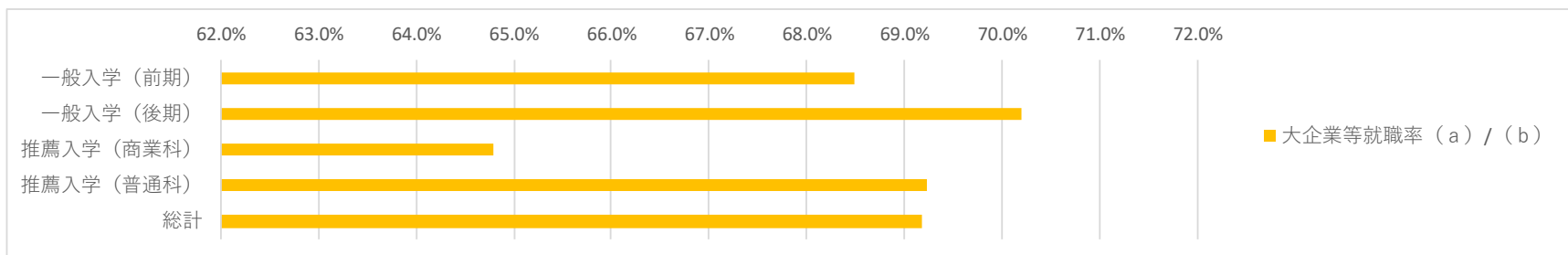


(3) 入試種別ごとの進路状況 (大企業等就職割合)

※大企業等就職割合：就職者のうち、大企業(資本金10億円以上)又は官公庁に就職した学生の割合

※夜間主、編入学、帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、集計からは除外。

入試種別	大企業+官公庁就職者 (a)	就職者 (b)	大企業等就職率 (a) / (b)
一般入学 (前期)	376	549	68.5%
一般入学 (後期)	478	681	70.2%
推薦入学 (商業科)	46	71	64.8%
推薦入学 (普通科)	99	143	69.2%
総計	999	1444	69.2%

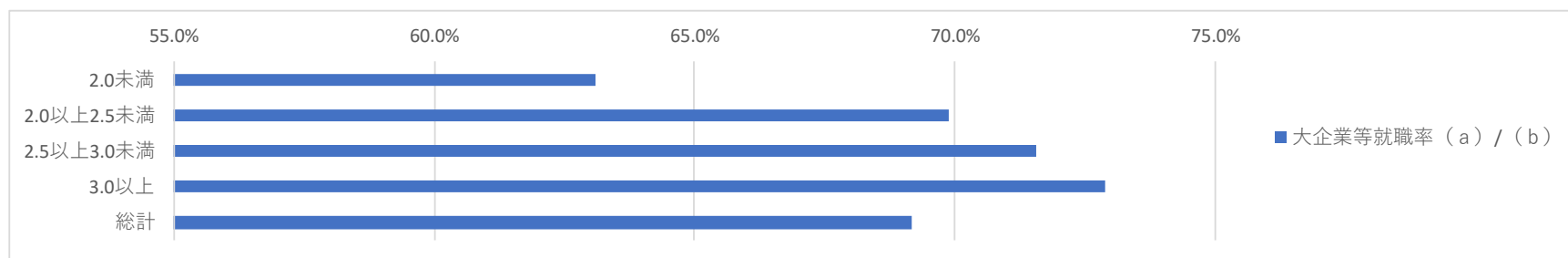


(4) 1年次の学業成績と進路状況(大企業等就職割合)

※大企業等就職割合：就職者のうち、大企業(資本金10億円以上)又は官公庁に就職した学生の割合

※夜間主、編入学、帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、集計からは除外。

2016～2019 年度入学生	1年次GPA	大企業+官公庁就職者 (a)	就職者 (b)	大企業等就職率 (a) / (b)
	2.0未満	224	355	63.1%
	2.0以上2.5未満	313	448	69.9%
	2.5以上3.0未満	282	394	71.6%
	3.0以上	180	247	72.9%
	総計	999	1444	69.2%

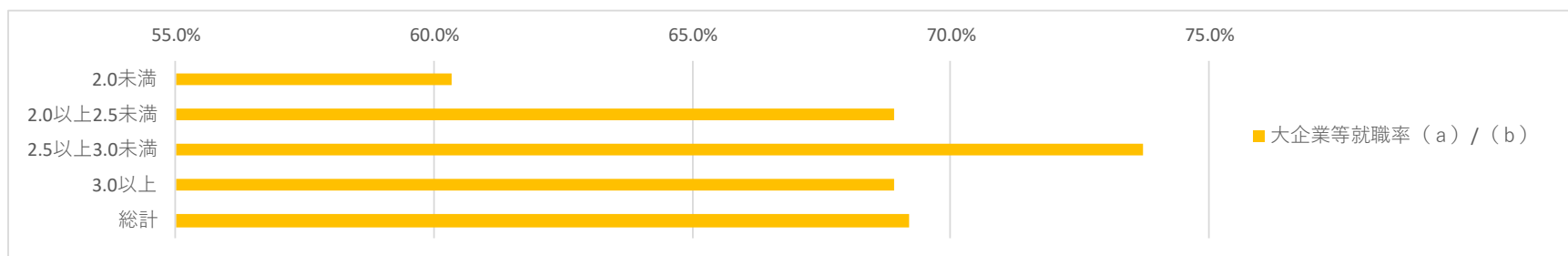


(5) 卒業時の学業成績と進路状況(大企業等就職割合)

※大企業等就職割合：就職者のうち、大企業(資本金10億円以上)又は官公庁に就職した学生の割合

※夜間主、編入学、帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、集計からは除外。

2016～2019 年度入学生	卒業時通算GPA	大企業+官公庁就職者 (a)	就職者 (b)	大企業等就職率 (a) / (b)
	2.0未満	181	300	60.3%
	2.0以上2.5未満	330	479	68.9%
	2.5以上3.0未満	328	445	73.7%
	3.0以上	160	220	68.9%
	総計	999	1444	69.2%



入試種別ごとの学業成績及び進路状況との相関についての分析 (DS 学部関連)

(1) 入試種別と学業成績(GPA)の関係

※2017～2019年度入学生は、2022年度末までに卒業した学生を対象とし、2020年度以降は2022年度末まで在籍した学生を対象。

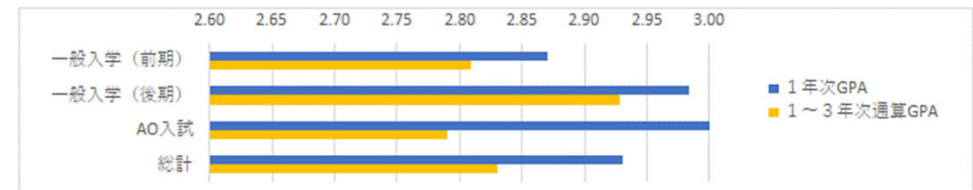
2017～2019
年度入学生

入試種別	人数	1 年次 GPA	卒業時通算 GPA
一般入学 (前期)	188	2.82	2.85
一般入学 (後期)	71	2.87	2.88
AO入試	28	2.71	2.71
総計	287	2.82	2.84



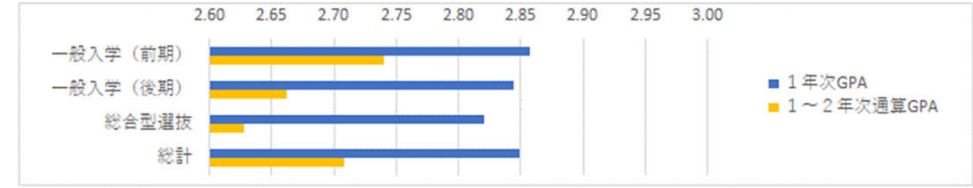
2020
年度入学生

入試種別	人数	1 年次 GPA	1～3 年次通算 GPA
一般入学 (前期)	62	2.87	2.81
一般入学 (後期)	21	2.98	2.93
AO入試	19	3.07	2.79
総計	102	2.93	2.83



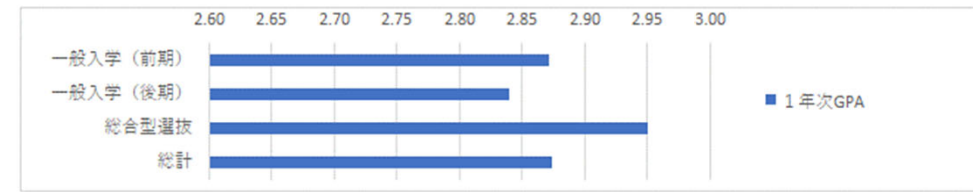
2021
年度入学生

入試種別	人数	1 年次 GPA	1～2 年次通算 GPA
一般入学 (前期)	66	2.86	2.74
一般入学 (後期)	13	2.84	2.66
総合型選抜	18	2.82	2.63
総計	97	2.85	2.71



2022
年度入学生

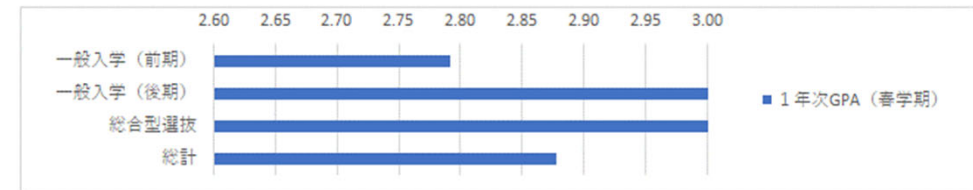
入試種別	人数	1 年次 GPA
一般入学 (前期)	73	2.87
一般入学 (後期)	20	2.84
総合型選抜	11	2.95
総計	104	2.87



(参考)

2023
年度入学生
※春学期のみ

入試種別	人数	1 年次 GPA (春学期)
一般入学 (前期)	64	2.79
一般入学 (後期)	19	3.04
総合型選抜	17	3.02
総計	100	2.88

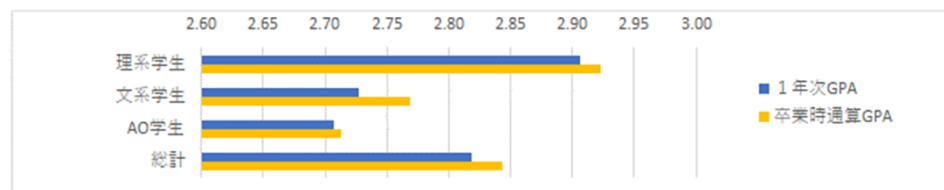


(2) 文系・理系別の学業成績(GPA)

※センター試験（共通テスト）の理科において、2科目受験をした学生を「理系学生」、1科目受験した学生を「文系学生」と定義。
 ※2017～2019年度入学生は、2022年度末までに卒業した学生を対象とし、2020年度以降は2022年度末まで在籍した学生を対象。

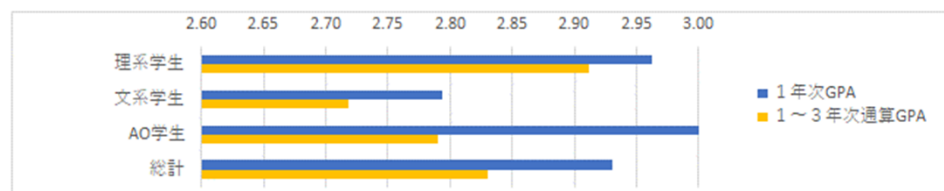
2017～2019
年度入学生

文理区分	人数	1年次GPA	卒業時通算GPA
理系学生	149	2.91	2.92
文系学生	110	2.73	2.77
AO学生	28	2.71	2.71
総計	287	2.82	2.84



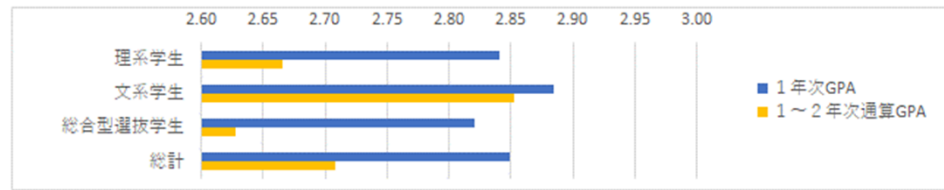
2020
年度入学生

文理区分	人数	1年次GPA	1～3年次通算GPA
理系学生	52	2.96	2.91
文系学生	31	2.79	2.72
AO学生	19	3.07	2.79
総計	102	2.93	2.83



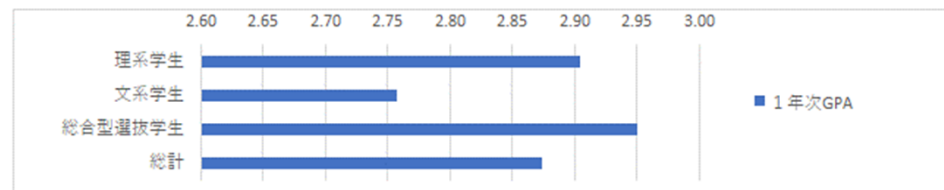
2021
年度入学生

文理区分	人数	1年次GPA	1～2年次通算GPA
理系学生	53	2.84	2.67
文系学生	26	2.88	2.85
総合型選抜学生	18	2.82	2.63
総計	97	2.85	2.71



2022
年度入学生

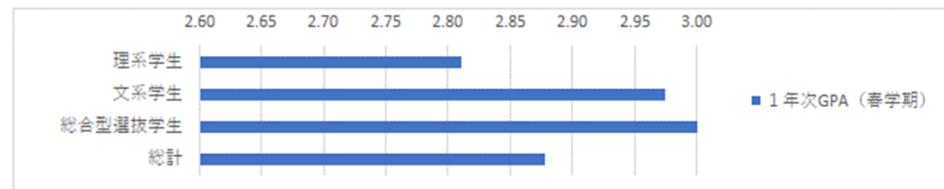
文理区分	人数	1年次GPA
理系学生	68	2.90
文系学生	25	2.76
総合型選抜学生	11	2.95
総計	104	2.87



(参考)

2023
年度入学生
※春学期のみ

文理区分	人数	1年次GPA (春学期)
理系学生	64	2.81
文系学生	19	2.97
総合型選抜学生	17	3.02
総計	100	2.88

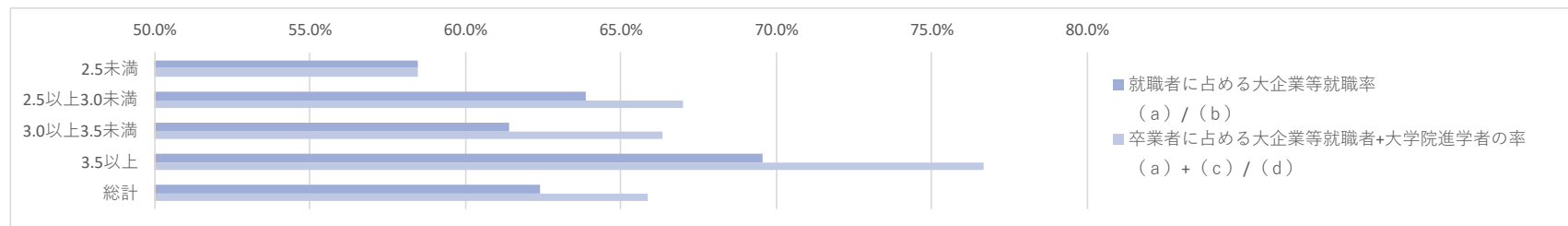


(3) 1年次の学業成績と進路状況(大企業等就職・大学院進学割合)

※大企業等就職割合：就職者のうち、大企業(資本金10億円以上)又は官公庁に就職した学生の割合

2017～2019
年度入学生

1年次GPA	大企業+官公庁就職者 (a)	就職者 (b)	大学院進学者 (c)	卒業者 (d)	就職者に占める大企業等就職率 (a) / (b)	卒業者に占める大企業等就職者+大学院進学者の率 (a) + (c) / (d)
2.5未満	31	53	7	65	58.5%	58.5%
2.5以上3.0未満	46	72	17	94	63.9%	67.0%
3.0以上3.5未満	43	70	22	98	61.4%	66.3%
3.5以上	16	23	7	30	69.6%	76.7%
総計	136	218	53	287	62.4%	65.9%

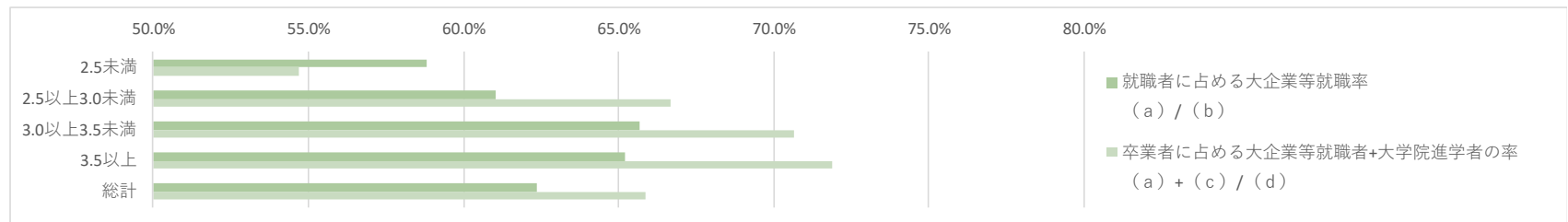


(4) 卒業時の学業成績と進路状況(大企業等就職・大学院進学割合)

※大企業等就職割合：就職者のうち、大企業(資本金10億円以上)又は官公庁に就職した学生の割合

2017～2019
年度入学生

卒業時通算GPA	大企業+官公庁就職者 (a)	就職者 (b)	大学院進学者 (c)	卒業者 (d)	就職者に占める大企業等就職率 (a) / (b)	卒業者に占める大企業等就職者+大学院進学者の率 (a) + (c) / (d)
2.5未満	30	51	5	64	58.8%	54.7%
2.5以上3.0未満	47	77	19	99	61.0%	66.7%
3.0以上3.5未満	44	67	21	92	65.7%	70.7%
3.5以上	15	23	8	32	65.2%	71.9%
総計	136	218	53	287	62.4%	65.9%

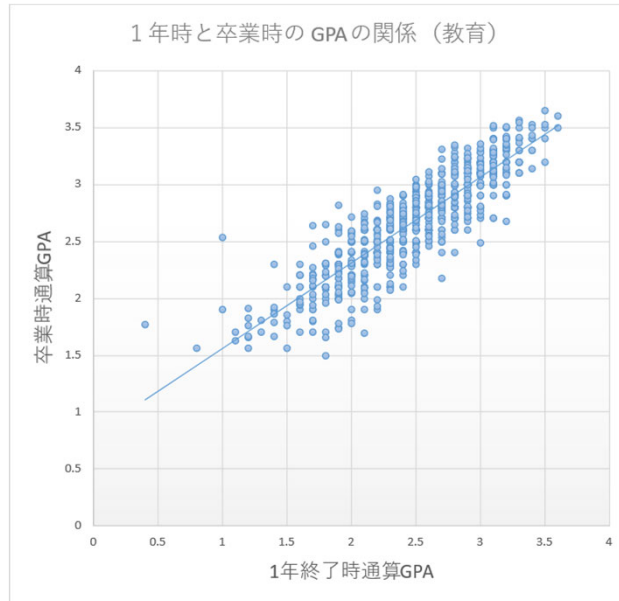


《参考》1年次の学業成績と卒業時の学業成績の関係 (全学部)

教育学部

N = 946

(2016～2019年度入学生のうち、2022年度末までに卒業した学生)

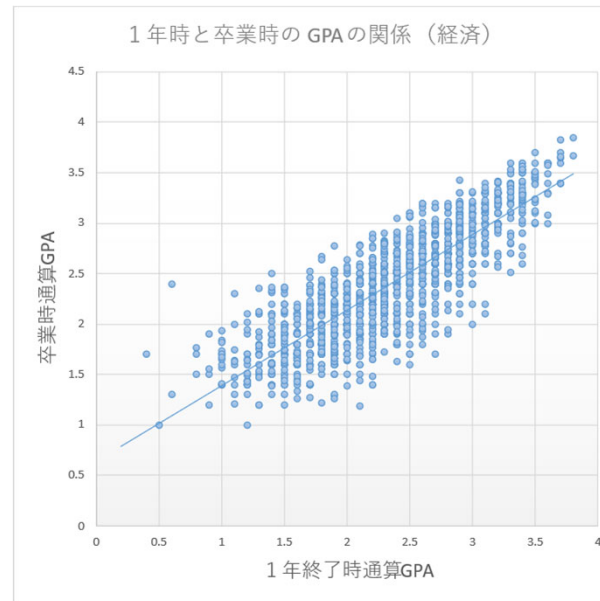


相関係数：0.88115

経済学部

N = 1,852

(2016～2019年度入学生のうち、2022年度末までに卒業した学生 (編入学生を除く))

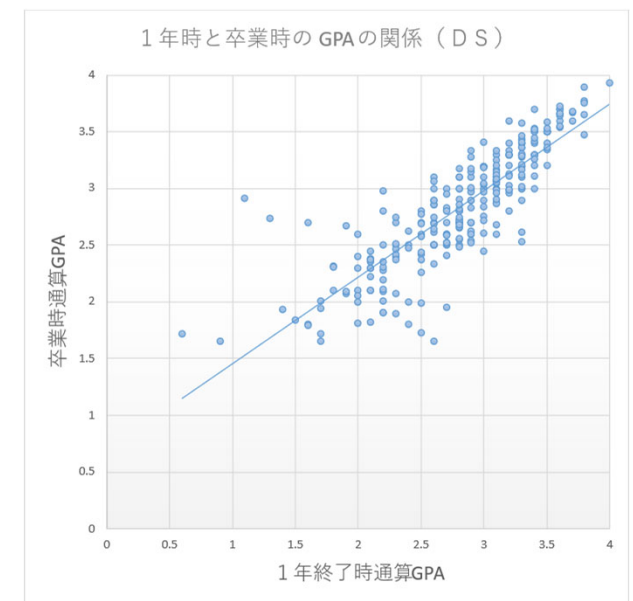


相関係数：0.84604

D S 学部

N = 284

(2017～2019年度入学生のうち、2022年度末までに卒業した学生)



相関係数：0.84682

【分 析】

- ・ いずれの学部も、1年次GPAと4年終了時の最終GPAには強い相関があり、特に教育学部の相関は強い。
- ・ 例外もあるが、総じて1年次にある程度のGPAを維持していないと、4年間で (卒業時に) 大きな逆転は望めないと考えられる。

図書館の滞在時間数とGPAとの関係についての分析（図書館関連）

①データ収集

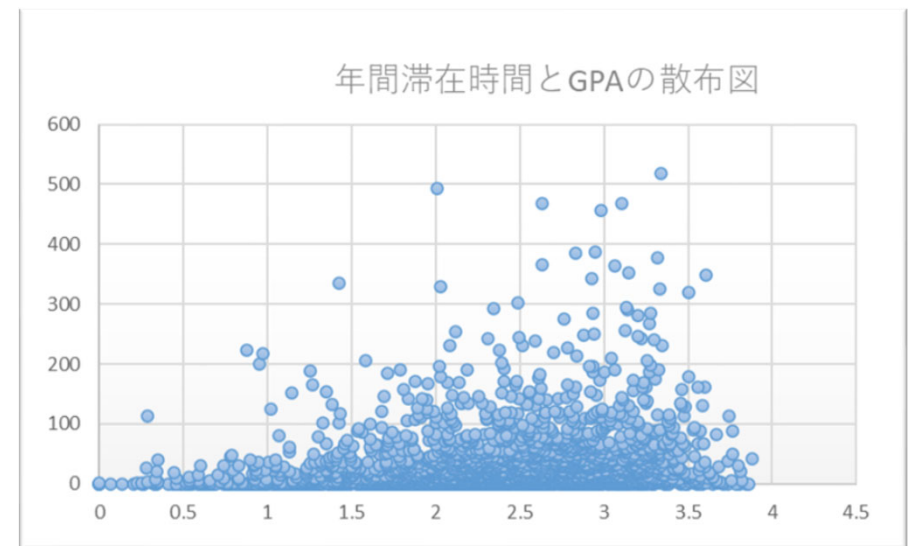
- ・2023年度春学期の現2回生から4回生の通算GPAデータを取得（Dream Campusより）
- ・現2回生から4回生の2022年度における図書館年間滞在時間数を取得（図書館システムより）

②データの統合・集計

- ①で収集したデータを学籍番号をキーに統合し、GPAを0.5毎にランク分けし、各ランクに属する学生の2022年度の図書館での年間滞在時間数を集計（全学・学部）。

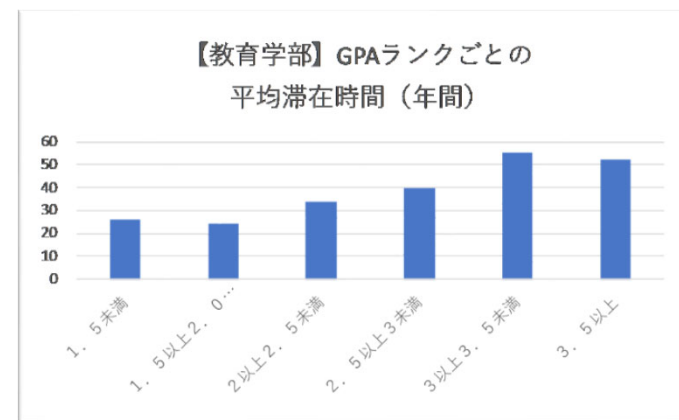
▶全学

GPAランク	人数	平均滞在時間（年間）
1. 5未満	355	15.890
1. 5以上2. 0未満	399	21.221
2以上2. 5未満	640	31.416
2. 5以上3未満	696	38.445
3以上3. 5未満	459	44.200
3. 5以上	62	41.226
全学	2,611	32.101



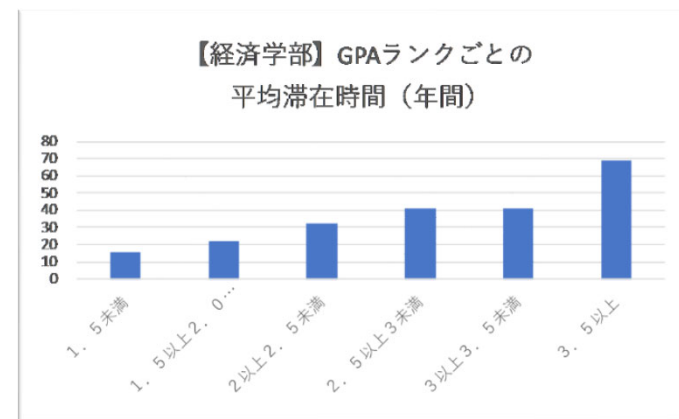
▶教育学部

GPAランク	人数	平均滞在時間（年間）
1. 5 未満	38	26.105
1. 5 以上 2. 0 未満	60	24.250
2 以上 2. 5 未満	176	33.767
2. 5 以上 3 未満	281	39.726
3 以上 3. 5 未満	163	55.049
3. 5 以上	7	52.143
教育学部全体	725	39.850



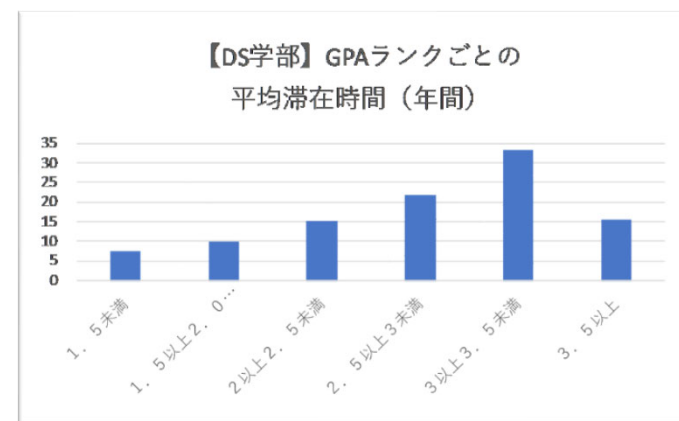
▶経済学部

GPAランク	人数	平均滞在時間（年間）
1. 5 未満	291	15.292
1. 5 以上 2. 0 未満	305	21.872
2 以上 2. 5 未満	411	32.511
2. 5 以上 3 未満	343	40.892
3 以上 3. 5 未満	184	41.217
3. 5 以上	25	68.840
経済学部全体	1,559	30.670



▶DS学部

GPAランク	人数	平均滞在時間（年間）
1. 5 未満	26	7.654
1. 5 以上 2. 0 未満	34	10.029
2 以上 2. 5 未満	53	15.113
2. 5 以上 3 未満	72	21.792
3 以上 3. 5 未満	112	33.313
3. 5 以上	30	15.667
DS学部全体	327	21.746



新入生意識等調査結果についての分析

（回答数）

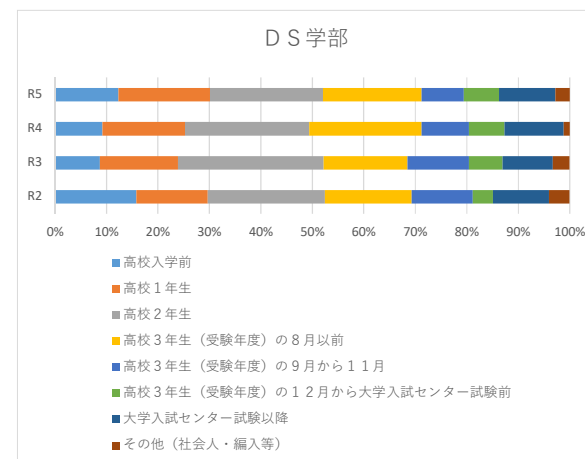
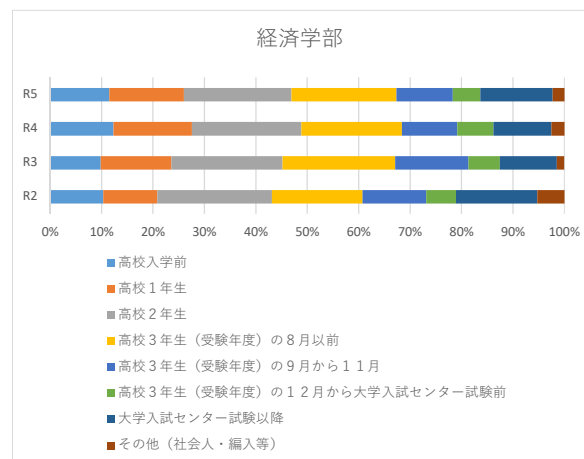
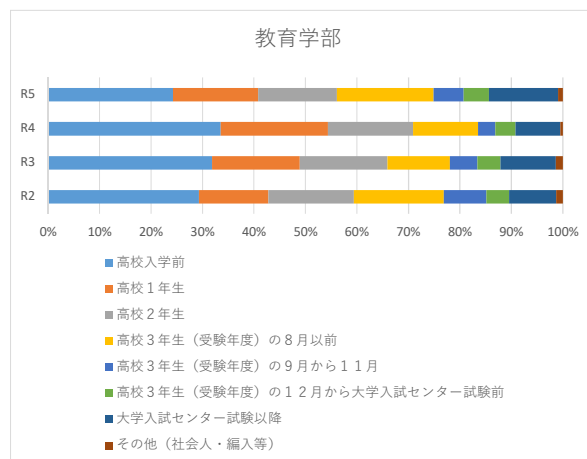
R 5：教育 223(回答率91.8%) 経済 392(82.2%) DS 73(73.0%)

R 4：教育 206(回答率86.2%) 経済 399(85.4%) DS 87(83.7%)

R 3：教育 223(回答率 91.8%) 経済 407(89.5%) DS 92(92.0%)

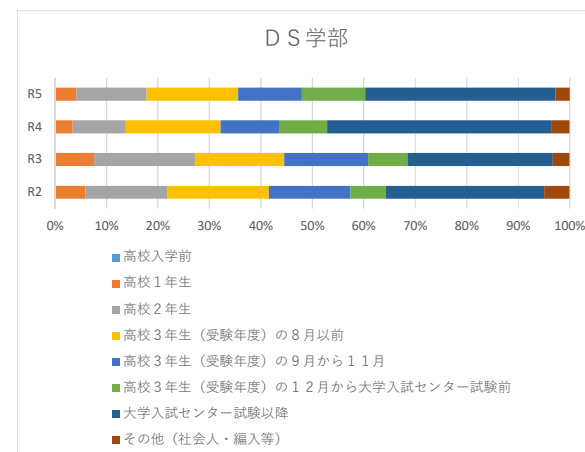
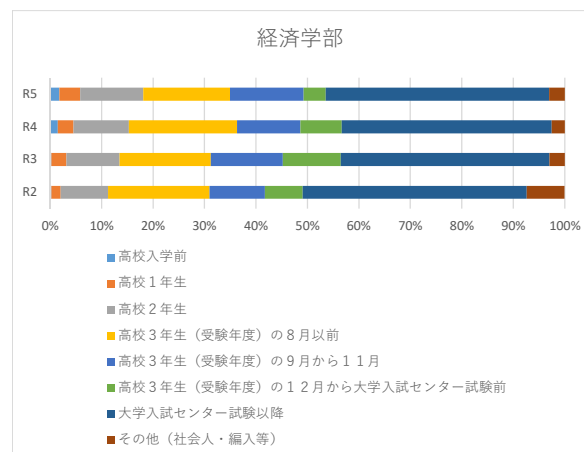
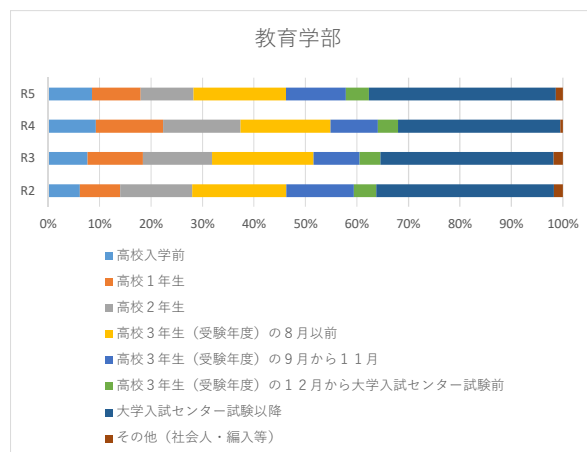
R 2：教育 229(回答率 98.3%) 経済 435(94.4%) DS 100(95.2%)

Q1 滋賀大学を知った時期



【全学的に早期化の傾向】全学的に、本学を知った時期に早期化の傾向が見られる。なお、教育学部においてはR5において10ポイント以上の減少が見られた。教育学部・DS学部では高校2年生までに本学を知っていた者が5割を超えている。

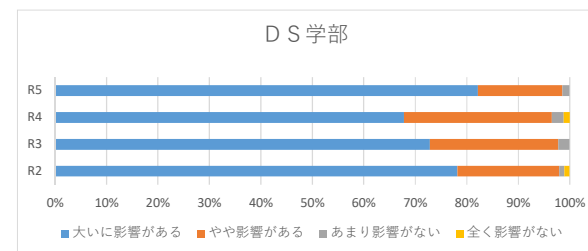
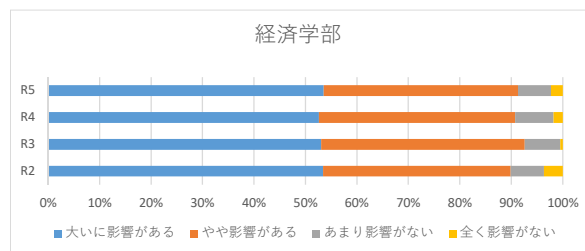
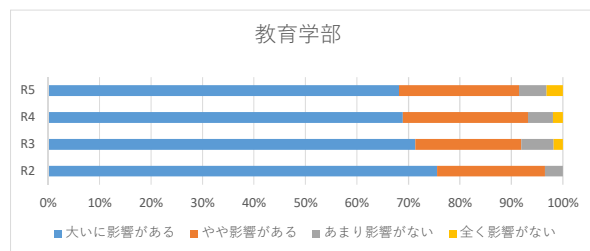
Q2 滋賀大学を志望することを決めた時期



【経済では早期化の傾向】経済学部においては、本学への志願決定時期にも早期化の傾向が見られる。

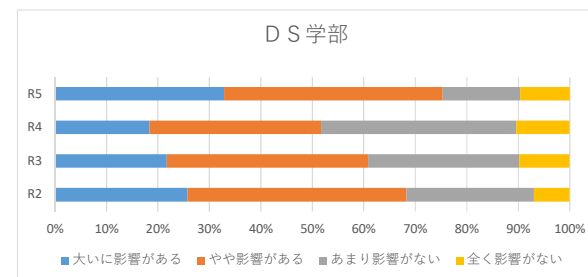
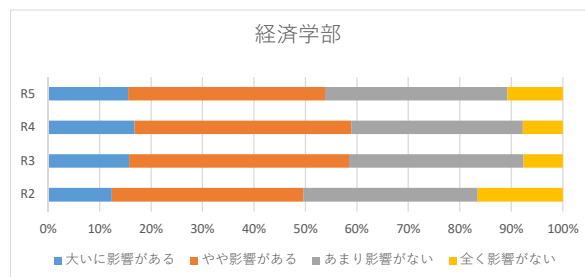
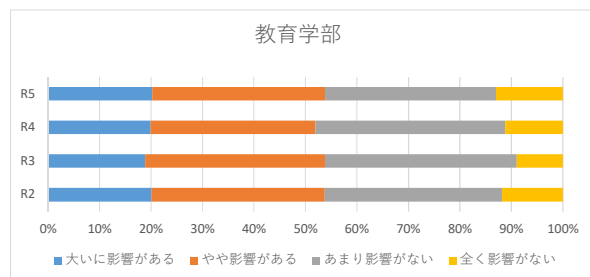
(Q3～Q15 滋賀大学への受験・入学を決めた理由)

Q3 関心ある専門領域



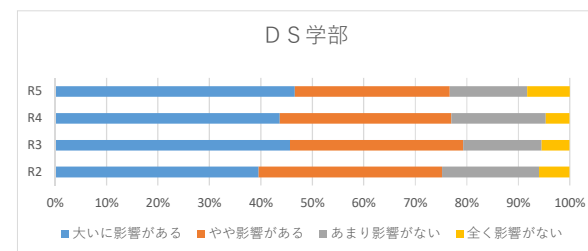
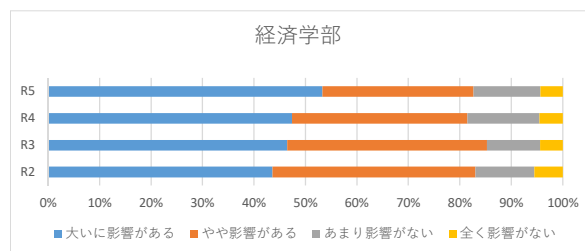
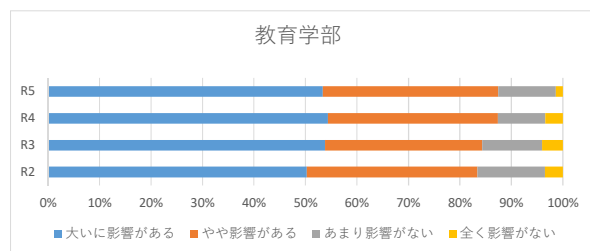
【専門領域に関心を持って選択】全学において「関心ある専門領域を学べる」ことが選択に強く影響している結果となっている。ただし、教育・DS学部では「大いに」と回答したものが7割程度で推移しているのに対し、経済学部では5割程度にとどまっており、両学部と比較すると弱い決定要因となっている。

Q4 先生（教授陣）が魅力的



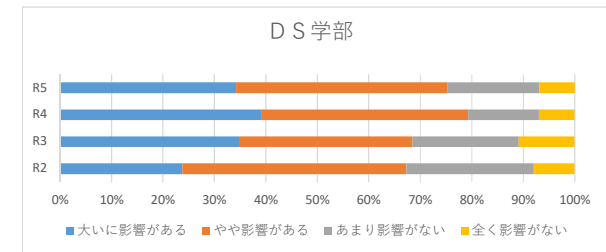
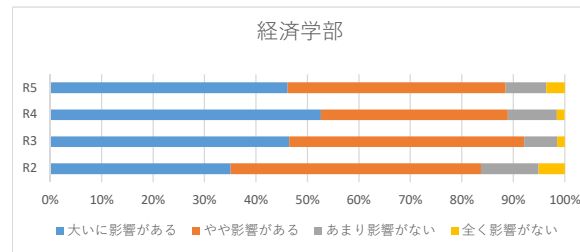
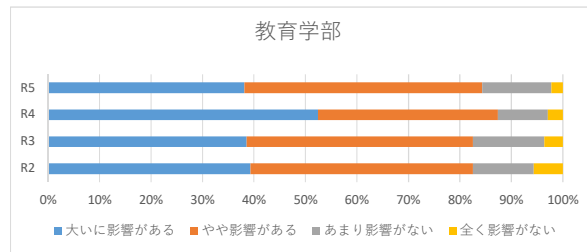
【相対的には弱い要因】他の質問項目と比べると、影響の度合いは比較的弱い項目である。各学部とも5～6割前後で推移していたが、R5ではDS学部で20ポイント以上増加し、7割を超えておりDS学部に注目が集まっている事が分かる。

Q5 学費の水準



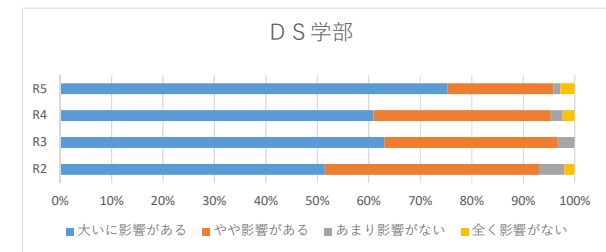
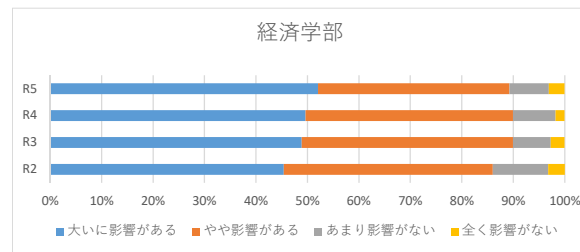
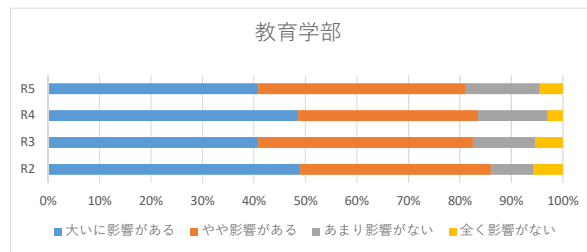
【学費は強く影響する要因】学費の水準は、本学を選択する際に強く影響する要因となっている。各学部とも、毎年8割前後の学生が選択に影響したと回答している。

Q6 国立大学としてのブランド



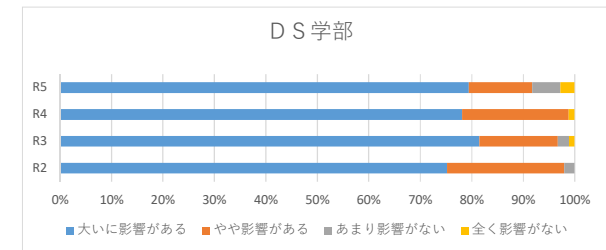
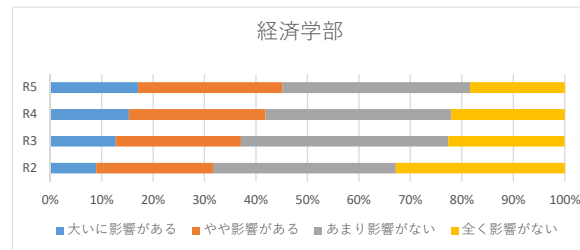
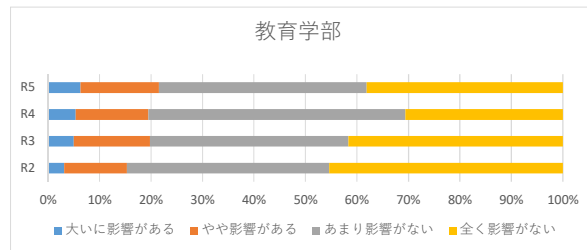
【国立大学も強く影響する要因】 国立大学としてのブランドも、本学を選択する際に強く影響する要因となっている。教育・経済学部では概ね8～9割で推移している。DS学部ではそれよりは若干弱いものの、7～8割程度で推移している。

Q7 学びたい分野での評価が高いこと



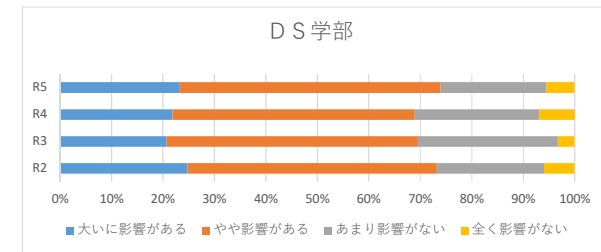
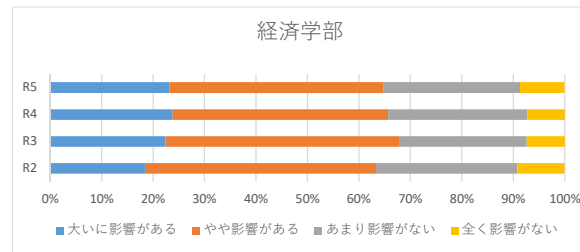
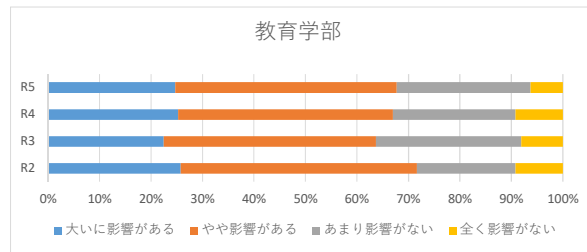
【分野での社会の評価も影響】 各学部生とも毎年8割以上が影響したと回答している。特に、DS学部では9割以上が影響したと回答しており、「大いに影響した」学生も年々増加し、R5では7割を超えている。

Q8 データサイエンスに関する取組で注目されている大学であること



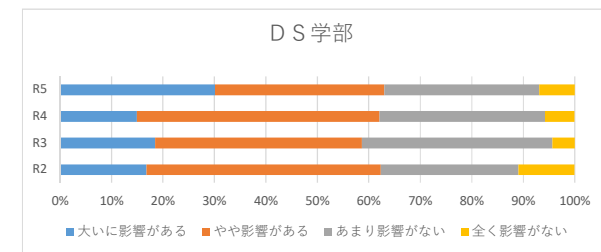
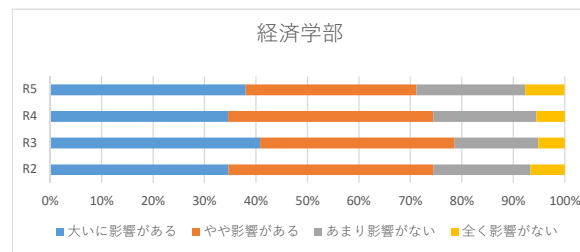
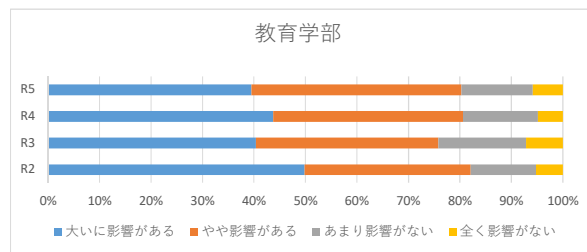
【教育・経済で増加傾向】 DSで注目されているという要因の影響は、DS学部では毎年9割を超えた回答となっている。教育・経済学部でも増加傾向を示しており、教育R2:15%→R5:21%、経済R2:31%→R5:44%超となっている。

Q9 学習環境が整備されていること



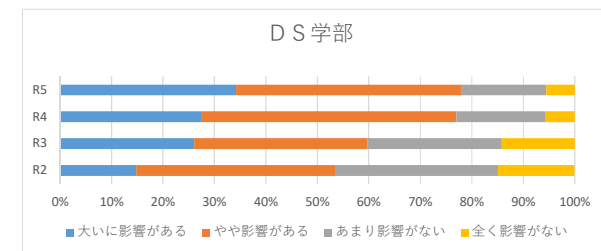
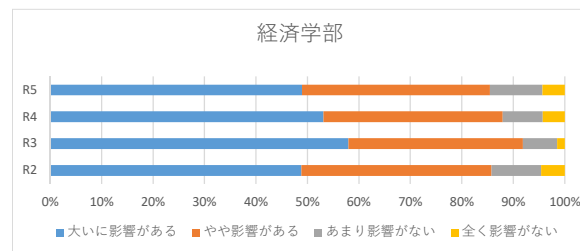
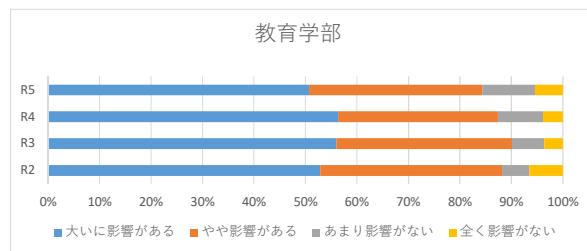
【学部間で大きな差異はない】 学習環境の影響については、学部毎に大きな差異はなく、影響度は概ね6～7割である。

Q10 学習支援・就職支援が充実していること



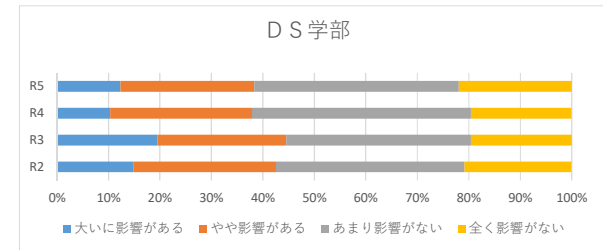
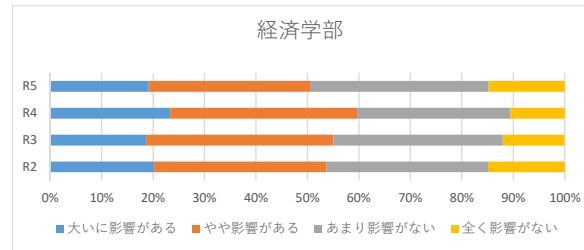
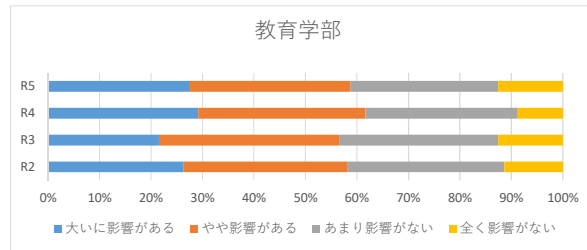
【教育・経済で強い】 学習支援・就職支援の充実の影響度合いは、教育学部：8割前後、経済学部：7～8割前後、D S学部：6割前後で推移している。

Q11 進路の状況がよいこと



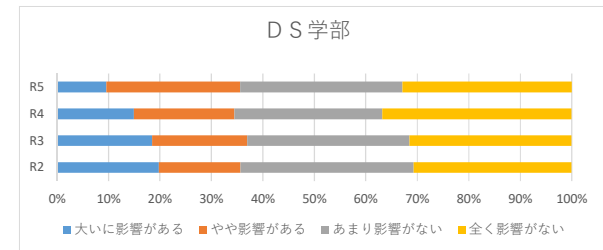
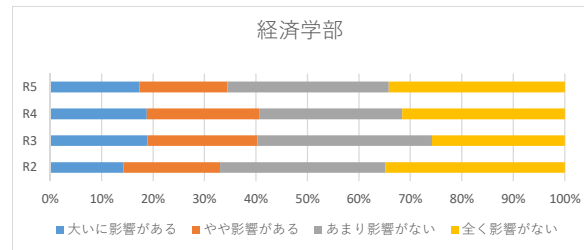
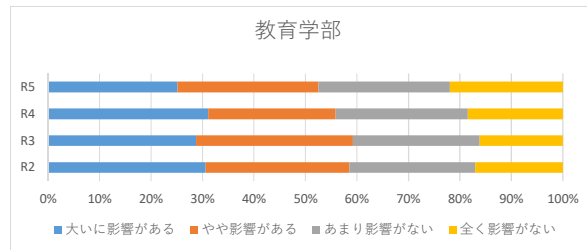
【教育・経済で強い】 進路状況は、教育・経済学部で8割超が肯定的に回答する強い選択要因となっているとともに、DS学部でもR2と比較してR5は25ポイントアップし、8割近くが肯定的に回答しており、大学としての進路状況の水準がプラスに働いている。

Q12 大学のおかれている環境（自然、文化遺産、住みやすさ、町の雰囲気）



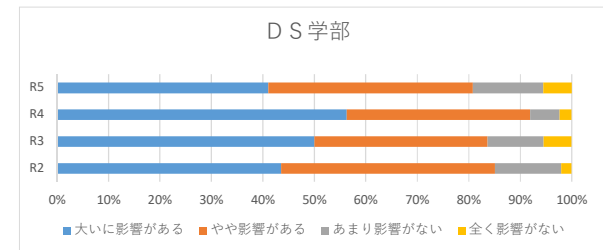
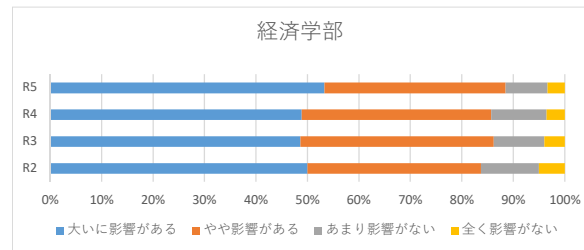
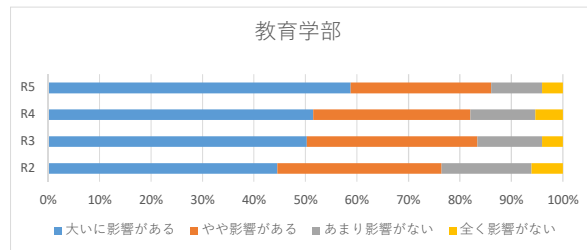
【教育・経済でやや影響】大学の周辺環境は他の選択要因と比較すると相対的には影響度は弱く、DS学部では4割程度である一方、経済学部で5～6割程度、教育学部では6割程度で推移している。

Q13 通学しやすいこと



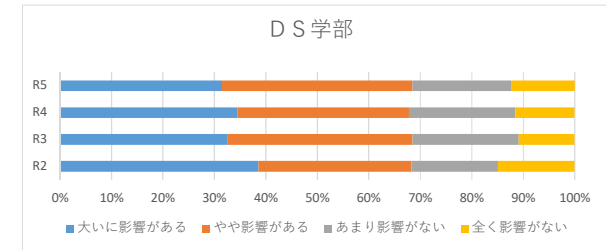
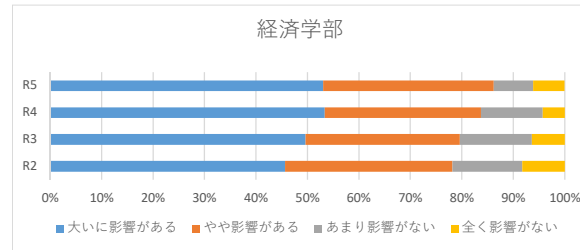
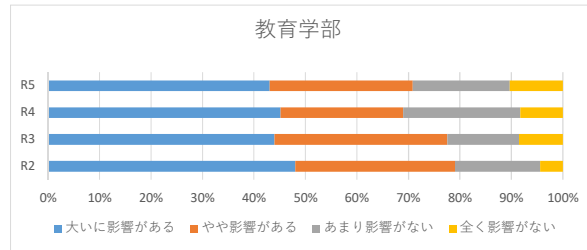
【教育学部でやや影響】通学のしやすさは相対的には影響度は弱い。特に経済・DS学部では影響の割合は3～4割程度で推移している。他方で教育学部では5～6割程度で推移している。

Q14 自分の学力（合格可能性）を勘案



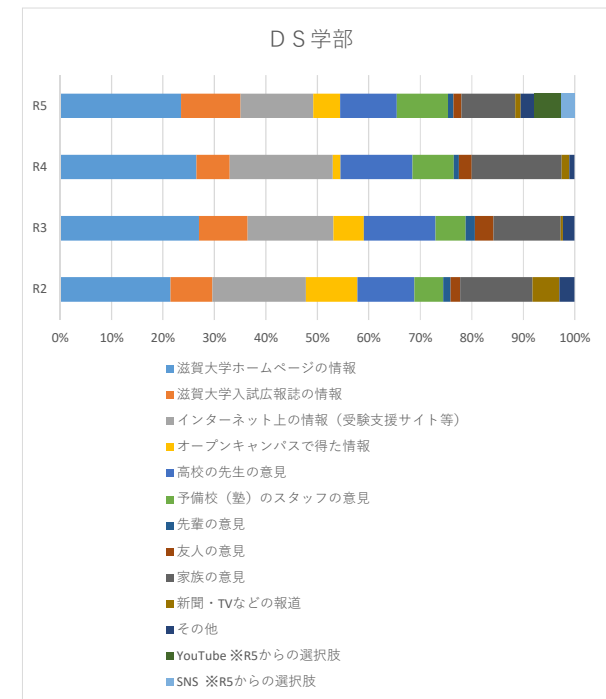
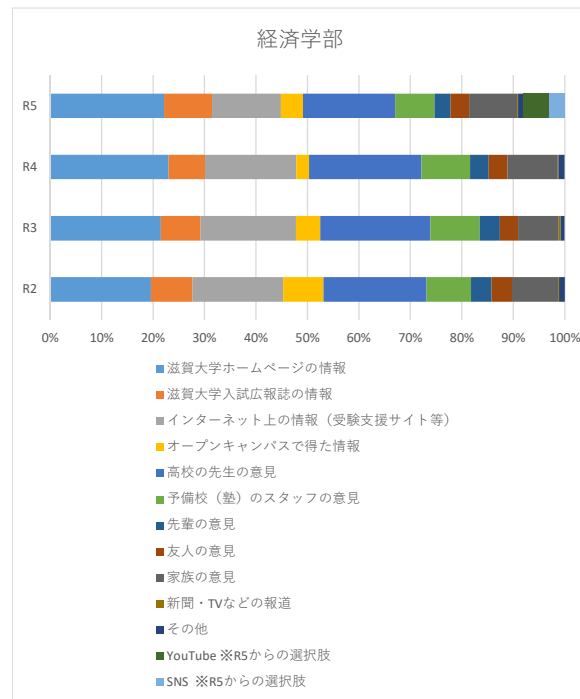
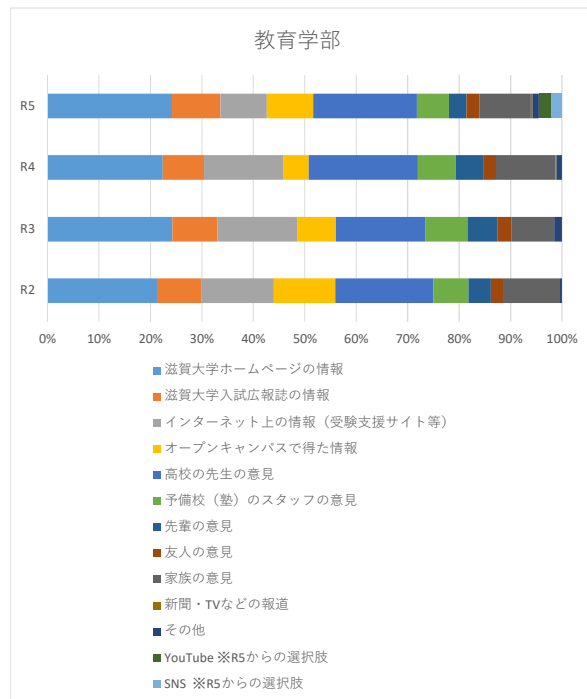
【全学部で強く影響】各学部とも4～5割程度の学生が、自分の学力との相応性が「大いに影響した」と回答している。DS学部は増加傾向が見られたが、R5では10ポイント以上減少した。

Q15 自分に適した入学試験制度があること



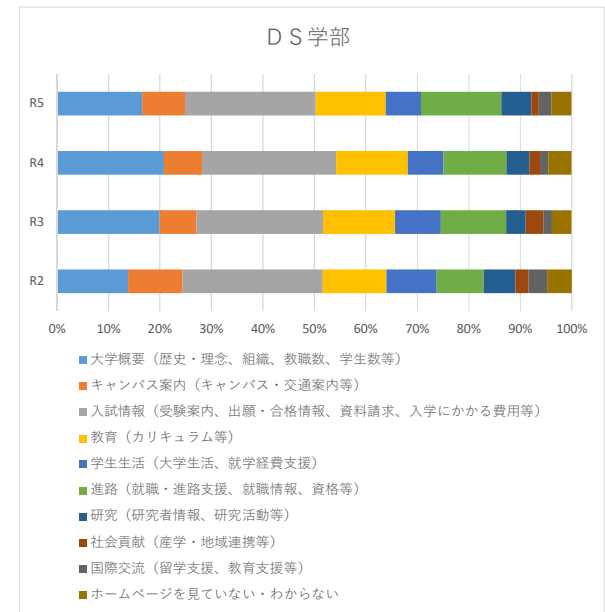
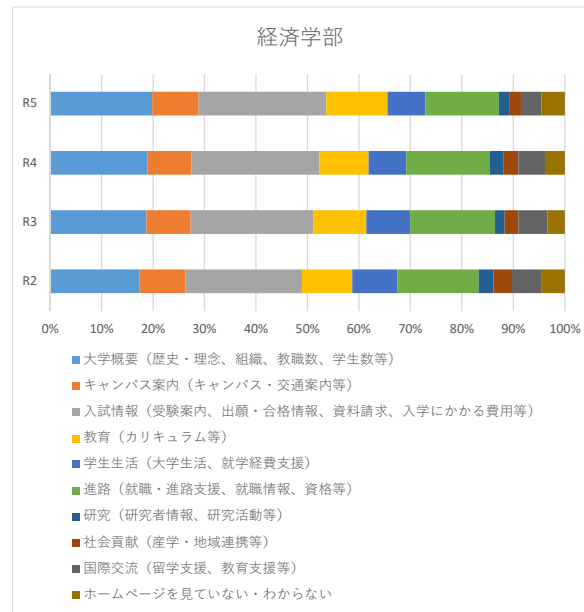
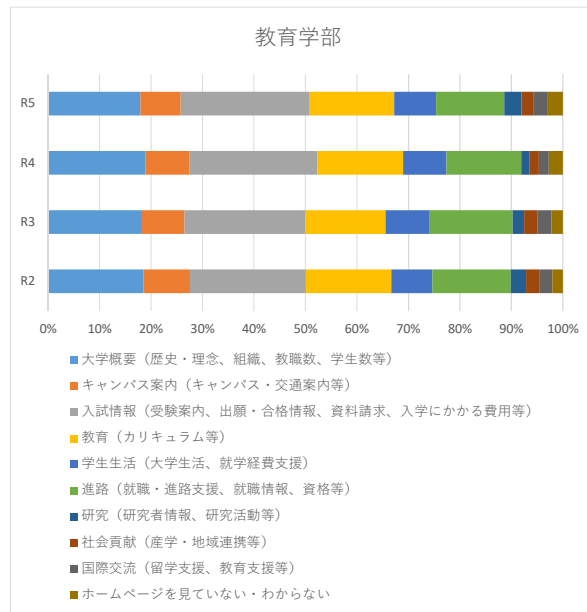
【経済学部でやや強い】入試制度との適合性は、経済学部で「大いに影響」の回答が5割程度で推移しており、「やや影響」と合わせるとR4以降では8割以上が影響したと回答している。

Q17 進路選択の際に参考とした情報



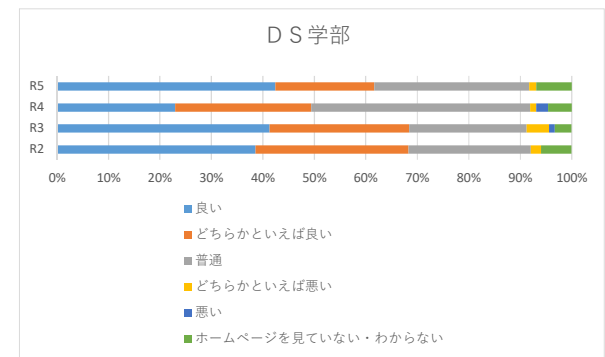
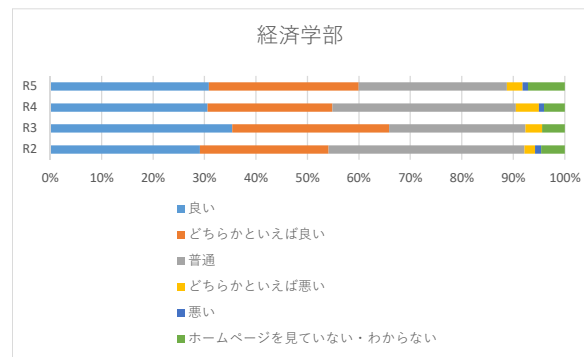
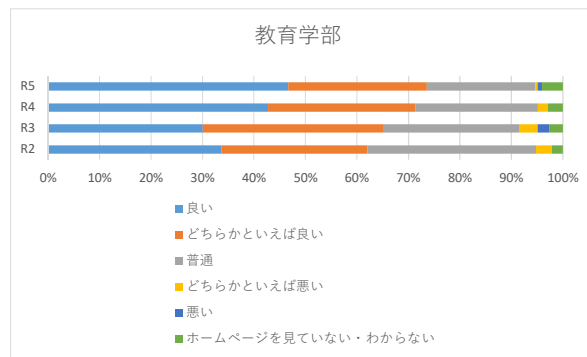
【教育・経済…高校の先生、DS…HP、ネット情報】教育学部・経済学部については、高校の先生の助言が2割強で推移している。DS学部では、高校の先生の助言は少なく、ホームページやネット情報が参考とされている。

Q21 受験の際に参考とした本学ホームページの情報



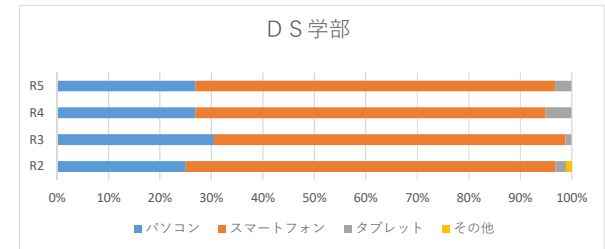
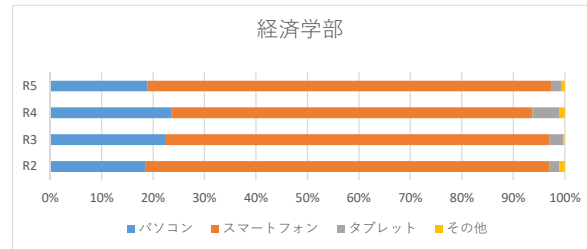
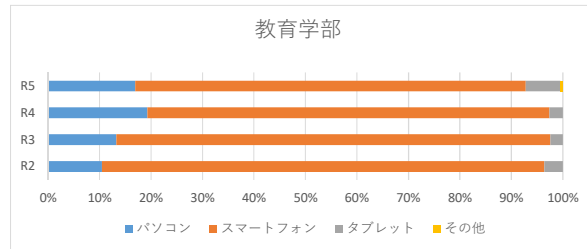
【学部間で大きな差異はない】学部間で大きな差異はなく、大学概要、入試情報、教育カリキュラム、進路情報等が特に参考とされている。

Q22 本学ホームページの印象



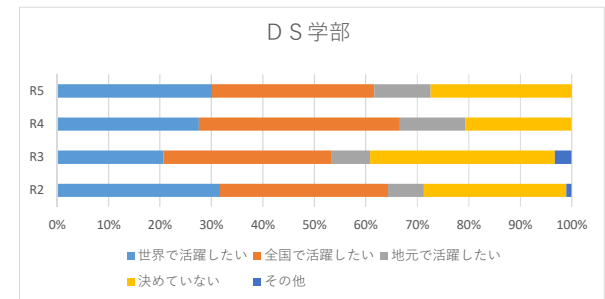
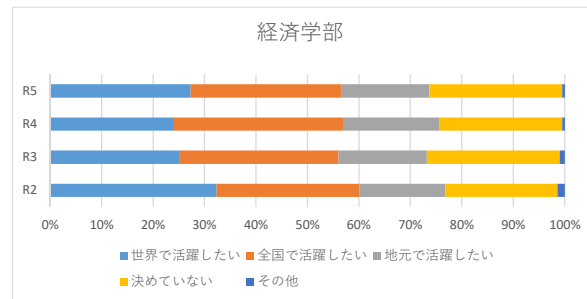
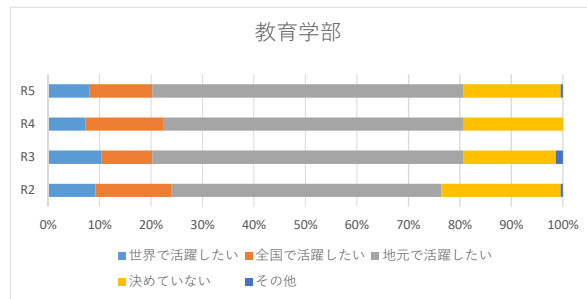
【リニューアル後も好印象】教育学部生は毎年6割以上、R5は7割以上の者が好印象の回答をしている。経済・DS学部は年度によりばらつきがあるが、R5は両学部とも6割が好印象の回答をしており、HPリニューアルが好意的に受け止められている。

Q23 本学ホームページを見る際に使用したデバイス



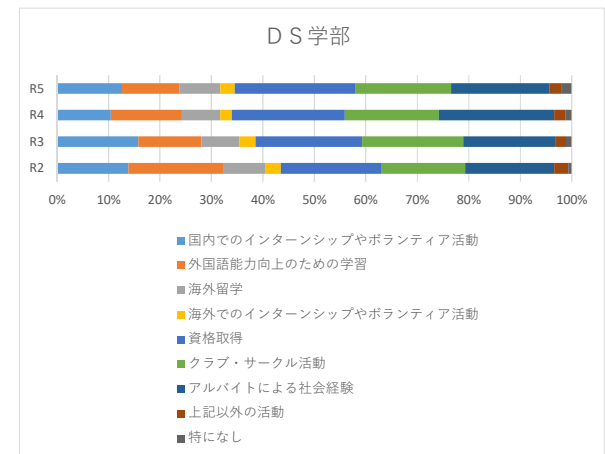
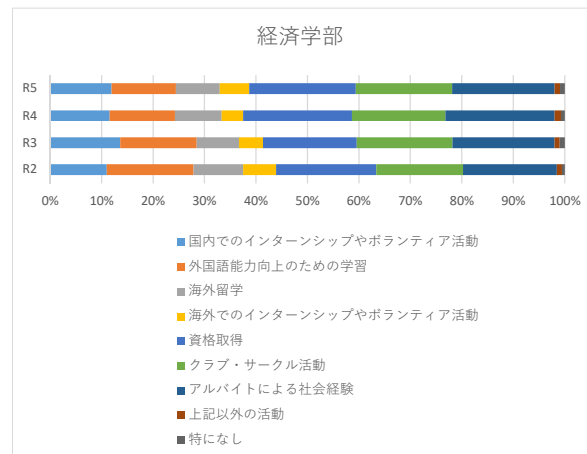
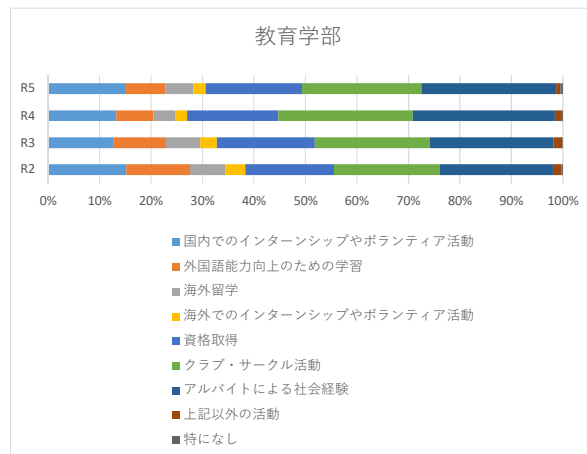
【PC約2割、スマホ約8割】スマートフォンが圧倒的に多い。DS学部生はPCを利用する学生が他学部と比較して多い。

Q25 将来活躍したい地域



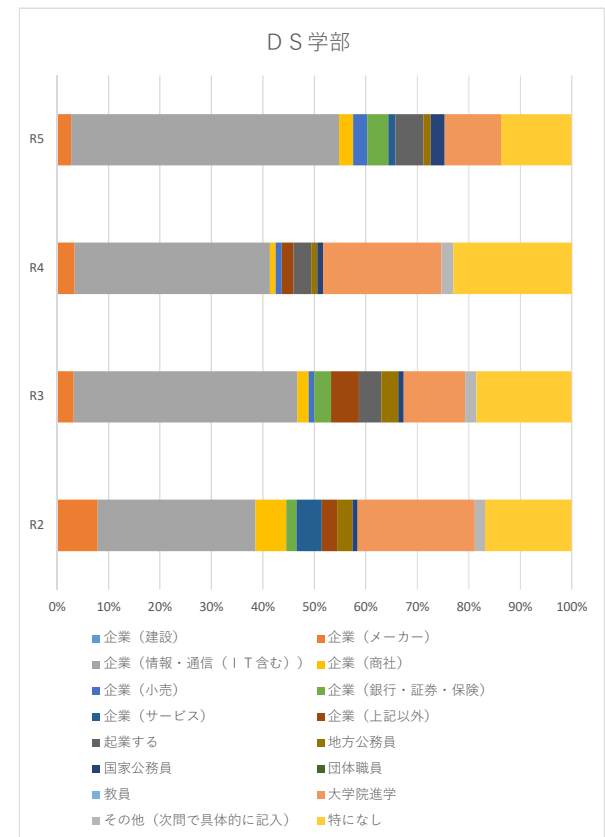
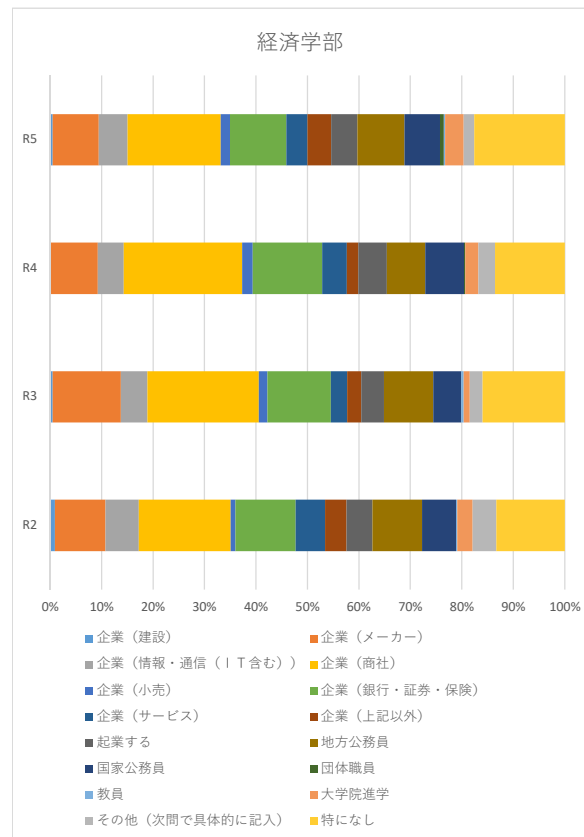
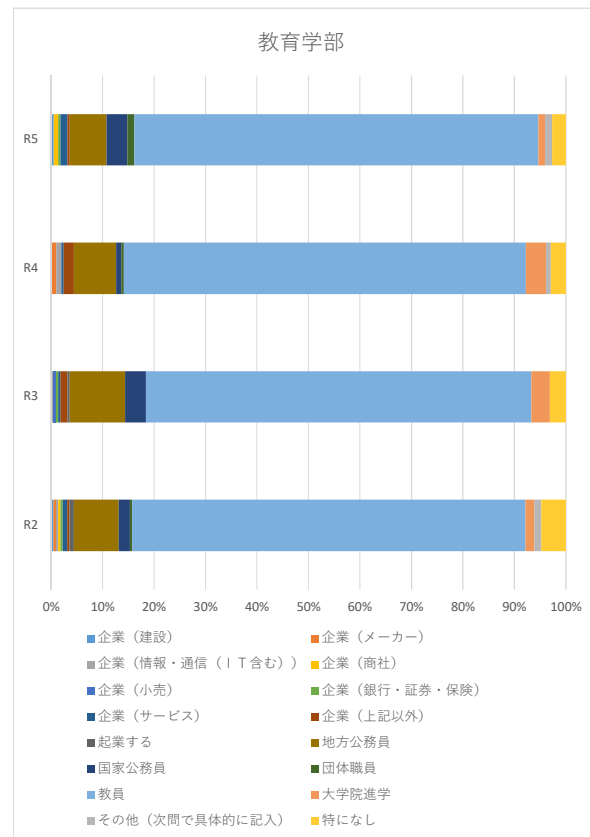
【地域志向の教育学部生、全国・世界志向の経済・DS生】教育学部生については、将来の活躍の場として地域を想定している学生が6割程度で推移している。一方、経済・DS学部では、全国又は世界を活躍の場として想定する学生が6割程度で推移している。

Q26 学習外で取り組みたいこと



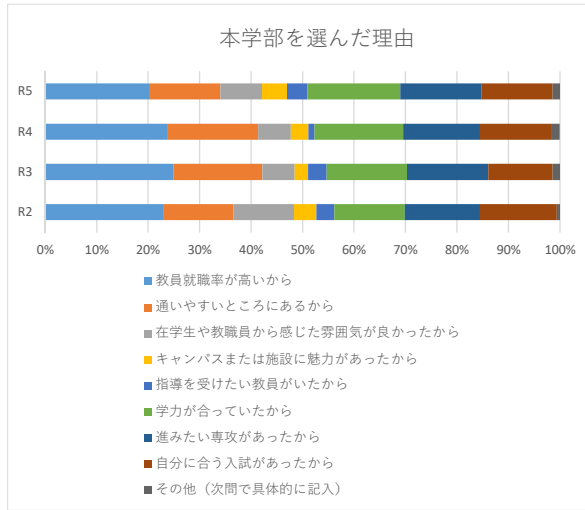
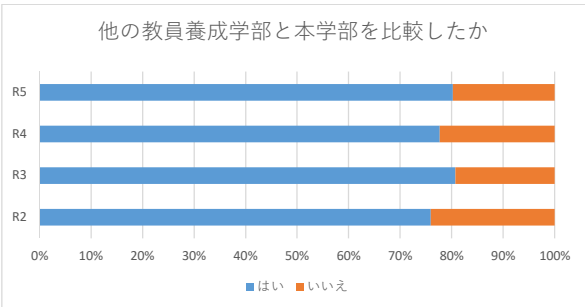
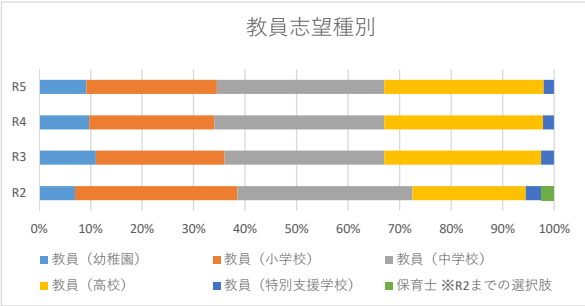
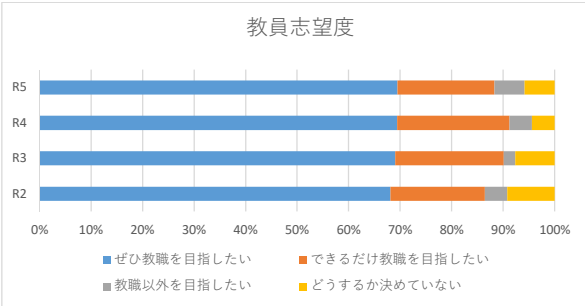
【資格・クラブ・バイト】学習外で頑張りたいことは、資格・クラブ・バイトがそれぞれ2～3割程度で推移しているが、各学部ともR3以降、増加傾向が見られる。

Q27 最も強く希望する進路

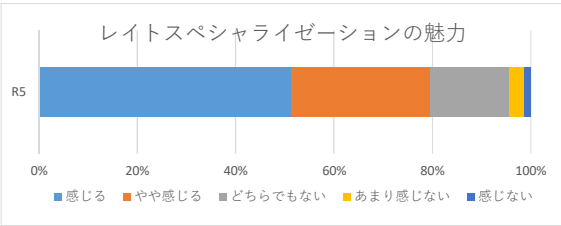
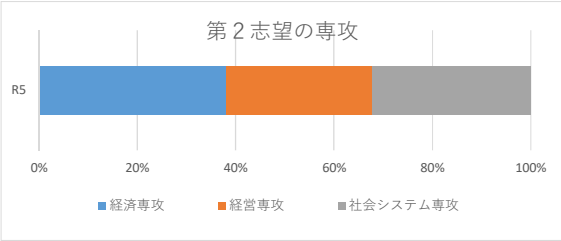
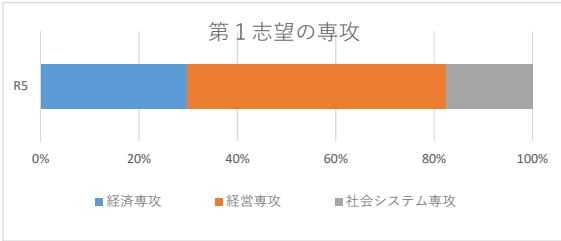
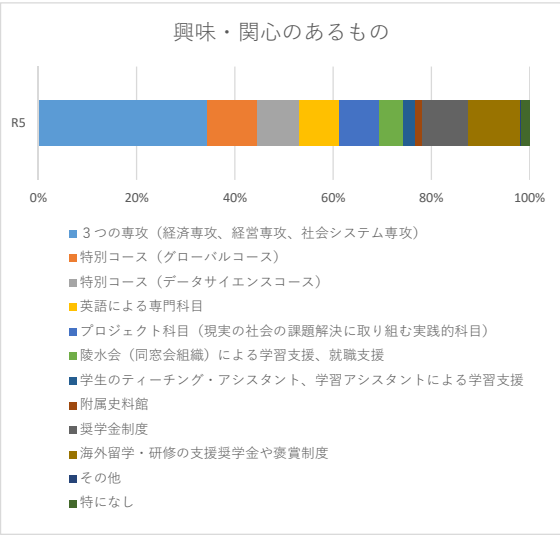
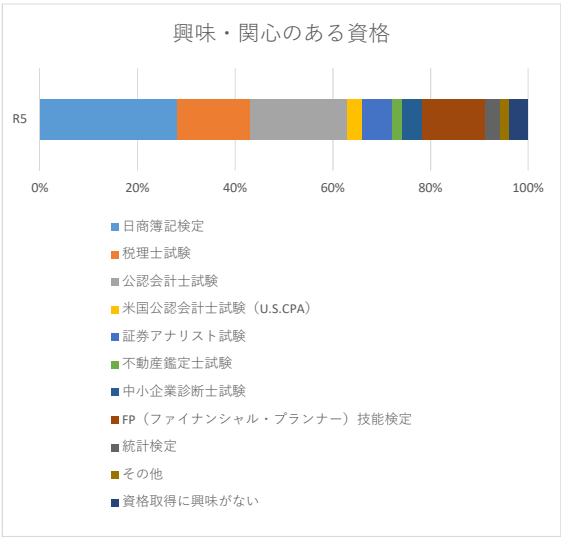


【各学部ごとに特色】最も強く希望する進路は、教育学部生…教員、経済学部生…企業（商社、金融、メーカー）、DS学部生…企業（情報・通信）がそれぞれ多数を占めており、各学部ごとに特色が出ている。特にR5においてはDS学部生は大学院進学から企業（情報・通信）就職へ意識が変わっている。

学部独自質問（教育学部）



学部独自質問（経済学部）



学部独自質問（D S 学部）

